

あの男とも、五年前は、

634

わるくなれとも、ひそかに

657

ども

冷えてゆけども

550

見は見つれども

677

叱れども、打てども

709

ともしび (燈火)

79

ともに (共に)

164

とも・る (点る)

166

とも・る 体

489

とり (鳥)

27

とりあ・く [取り上ぐ]

262

とりあ・け 用

376

とりあつ・む [取り集む]

677

とりあつ・め 用

259

とりい・づ [取り(出)づ]

202

とりい・で 用

503

とりかけ (鳥影)

487

とりだ・す [取り出す]

556

とりだ・し

556

とりどころな・し [取り所なし]

100

と・る (取る)

151

と・ら

151

と・り 24

491

720

と・る 体 647

680

686

と・れ 巳 230

とるにたらぬ (とるに足らぬ)

324

どれ 494

とろろと 486

どんよりと 98

【な】

な (名)

127

な (何)

73

な (何)

705

母よ咎むな 11

沁みにけらしな 332

妻よ、思ふな。 678

な・い 補

な・く

原稿紙にでなくては

631

な・い 体

死にたくはないかと

333

欲しくないのかと、

641

ナイフ 81

なう (脳) 629

なか (中) 13

37

110

130

190

199

296

299

377

380

382

なが (汝が) 346

708

ながいす (長椅子) 513

なが・し (長し)

なが・く 362

414

なが・し 452

415

なが・き 45

80

なが・い 口・体 266

629

ながつき (長月) 292

ながくながく (長く長く)

287

ながながと (長々と)

60

なかば (半ば) 292

322

なかまほしさ (泣かまほしさ)

90

なが・む (眺む)

なが・め 用 306

441

なが・む 528

654

なが・むる 129

713

ながめい・る (眺め入る)

564

ながめい・り 668

ながやまひ (長病) 694

なかよく・す

なかよく・せ 169

ながらうか (長廊下) 639

688

なが・れ 用 368

385

- なが・るる 57 255 335
 なきあ・く(泣き飽く) 24
 なきあ・き 24
 なきだ・す(泣き出す) 135
 なきだ・す 体
 なきぬ・る(泣き濡る) 1
 なきぬ・れ 用
 なきわらひ・す(泣き笑ひす) 282
 なきわらひ・し
 な・く(鳴く・啼く) 486 685
 な・き 体 18 201 237 282 384 514 732
 な・く 已 621
 な・け 已 621
 な・く(泣く) 187 280 709
 な・か 口・未 565
 な・か 3 14 227 230 413 545 606 642 651 672
 な・き 口・用 373 643 655 664 739
 な・い 終 280
 な・く 体 12 17 186 250 286 343 502 558
 な・く 命 215
 な・け 命 215
 な・く(投ぐ) 164 203
 な・げ 用 164 203
 なぐさ・ま 661
 なくな・る(無くなる) 565 690
 なくな・り 565 690
 なくな・る(亡くなる) 202
 なくな・れ 已
 なぐ・る(殴る) 350
 なぐ・ら 命 350
 なぐ・れ 命 350
 なげう・つ(擲つ) 138
 なげう・て 已
 なげだ・す(投げ出す) 44
 なげだ・し 44
 なご・む(和む) 119
 なご・み 738
 なさげ(情) 738
 なさげな・し(情なし) 622
 なさげな・く
 な・し(無し) 105 148 300 328 382 492 506 642 695 728
 な・く 105 148 300 328 382 492 506 642 695 728
 な・かり 用 583 630
 な・し 136 196 213 214 252 277 538 553 581
 な・き 8 13 79 124 139 144 222 236 308 331 342 371
 589 604
 な・き 8 13 79 124 139 144 222 236 308 331 342 371
 な・けれ 577 580
 な・かれ 91 708
 な・し(亡し) 169
 な・き 169
 な・す(為す) 83 266
 な・さ 83 266
 な・す 体 328
 な・せ 已 219
 なせ(何故) 67 622 695 728
 なせか(何故か) 674
 な……そ
 折りゆきしことな忘れそ 242
 なぞ(謎) 157 549
 なららか・なり(夷かなり) 484
 なららか・に 440 475 476 505 702
 なつ(夏) 440 475 476 505 702
 な・づ(撫つ) 574 650 693
 な・で 用 574 650 693
 なつか・し(懐かし) 123 352
 なつか・しく 123 352
 なつか・しかり 用 495
 なつか・し 199 270 274 290 444 684
 なつか・しき 216 503 562 579 703
 なつかし・む(懐かしむ) 216 503 562 579 703

なつかし・む 休 316
 なづ・く(名づく) 445
 なづ・け 用 163
 なづくさ(夏草) 495
 なつやすみ(夏休み) 170
 など
 生吠呻などなげするや 67
 菓子皿などをかりかりと 75
 草原などを 77
 背広など着て 78
 街など今日も 127
 吠呻などせむ 140
 夜のことなど思ひ出づる日 197
 地理の本など取りいでて 202
 下駄など欲しと 205
 郷里のことなど語り出でて 209
 櫛巻なども 216
 大工の子なども 225
 鳥など飛べ 277
 山もあれなど思ふ 288
 町の名なども 306
 耳朶なども 391
 君のことなど語り出でなむ 431
 赤き花など買はせけるかな 442

木のかをりなどただよへる 456
 門札などを 457
 手のふるひなどいとしかりけり 466
 文など長く 473
 眼のうるみなどかなしかり 478
 痛みなどいつか 504
 酒など呷らむと 509
 葱の香などの 519
 猫のまねなどして 520
 表紙のことなど、妻に 675
 つめたさなども。 687
 「革命」などと 710
 金などを 722
 ななつき(七月) 538
 ななやうか(七八日) 3
 ななやつき(七八月) 737
 ななやま(七山) 257
 なに(何) 5 54 87 104 114 241 289 437 553 613 671 712
 なにか(何か) 97 133 637 665 720 727 735
 なにがなく(何がなく) 578
 なにがなしに(何がなしに) 34 41 77
 なにごと(何事) 110 246 740
 なにすれば(何すれば) 148 149 382 569 129

なにとなく(何となく) 39
 なにもかも(何もかも) 723 616 649
 なのか(七日) 444
 なべて(並べて) 259
 なほ(猶) 11 101 367 697 704
 なほも(猶も) 378
 なほ・る(癒る) 67
 なほ・り 504
 なまあくび(生吠呻) 67
 なまけもの(怠け者) 183
 なまり(訛) 199
 なみ(浪) 325
 なみ(波) 403 407
 なみき(並木) 185
 なみき(街樹) 338
 なみだ(涙) 2 9 9 25 25 57 189 255 267 286
 360 385 545 614 618
 なみだ・す(涙す) 153
 なみだ・せ 160
 な・む(嘗む) 418
 な・め 用 460
 なめいし(大理石) 460
 なやましき(惱ましき) 327 575
 なやみ(悩み) 418

疲れなるかな 66
 黄なる花咲きし 167
 酔ひのあととなるやはらかき 461
 窓の下なる鋪石の 527
 児の心なる。 709
 をとこの子なる我は 734
 なれ
 勤めなればかな。 566
 二三行なれど。 624
 なりゆ・く〔成りゆく〕
 なりゆ・く 終 447
 なりゆ・く 体 723
 な・る(成る)〔為る〕
 な・ら 101 103 113 320 561
 な・り 41 48 58 61 64 75 77 82 98 135 161 175
 189 203 206 237 246 247 269 283 292 305 331 406 458 459 483 506
 592 596 622 642 651 663 720 736
 な・る 終 37 261 426 662 730
 な・る 体 123 607 630 689 699 719 728
 な・れ 已 25 41 41 237 301 309 390 424 434 468
 653 702 707 737 740
 な・れ 命 76 572 657 699
 な・る(鳴る)
 な・り 82 480

な・る 体 32 111 111 370 375 403 552
 な・れ 已 270
 な・る(償る)
 な・れ 用 68 265
 なれ(汝) 140 351
 なん(何) 577 635 692
 なんとなく(何となく) 622
 なんと(何度) 563 589 598 660
 【に】
 に(荷) 640
 に 白砂にわれ 1
 頬につたふなみだ 2
 大海にむかひて 3
 掘りてありしに 4
 ひと夜きに嵐来りて 5
 砂に腹這ひ 6
 裾によこたはる流木に 7
 砂に書き 10
 土に涎し 12
 室に我あり 13
 たはむれに母を…：軽きに泣きて 14
 咳する度に斯く 16

月に吠ゆるに似たりと 17
 穴に心を 19
 我にはたらく仕事あれ 20
 電車の隅にちちこまる 21
 夜のにぎはひにまぎれ入り 22
 物に倦みたる 23
 言葉に気がつけば 26
 草に臥て…：わが額に養して鳥は空に 27
 遊べり 28
 男に似たれば 30
 幹に耳あて 31
 「さばかりの事に死ぬるや」 「さばかりの事に生くるや」 31
 いただきに登り 34
 このごろ気になる 37
 前に来て 38
 汽車に乗りたく…：汽車を下りしに 39
 空家に入り…：居たきばかりに 40
 雪に熱てる頬を 42
 思ふことなしに 45
 目の前に躍り出でよと 46
 男に会ひしに 47
 利己の心に倦めるさびしさ 48

- 胸にやどりたる 51
 何にかたぐへむ 54
 その前にゆきて 55
 役に立たざる……人に金借りにけり 56
 路傍に犬ながながと……うらやましき
 に 60
 いまも目にあり 63
 人に仕へて 64
 空に躍り出でて 65
 人にさとらせぬため 67
 世のならはしに慣れにけるかな 68
 重さに似たる心地 70
 いただきに腕組みし日の 80
 切石の上に腕拱みて 86
 腹に力の 89
 泣かまほしさに来て 90
 腹に沁むがかなしも 92
 夜具にちちこまる時 93
 我に頭を 94
 我に似し友の 95
 見てゐしに 98
 人並の才に過ぎざる 99
 とある日に酒を 103
 それにむかひて 106
 うぬ惚るる友に……施与をするごとき
 心に 107
 夢のさめぎはに鼻に入り来し 108
 空地に石を……耳につき来ぬ家に入る
 まで 109
 頭のなかに崖ありて 110
 遠方に電話の 111
 はばかりに人目を 113
 目にうつる日なり家にこもらむ 115
 休日に一日寝て 116
 麵麩に似たりと 117
 あたまにひびくかなしき 118
 戸外に馬の 120
 廊下に立ちぬ……推せしにすぐ
 ラムプに飽きて……蠟燭の火に 125
 此処に我ありや 129
 電車のなかに唾を 130
 墓に入ることく 132
 おどろくひまに消えむと 133
 人のところに一人づつ 134
 庭石にはたと 138
 わがいひつげに背かじと 141
 秋雨の夜にのしりしかな 142
 身に沁む 143
 金なきに因することし 144
 男に口を 146
 誰そ我にピストルにても 150
 柱首相に手とられし 151
 目にあをぞらの 152
 十四の春にかへる術なし 153
 青空に消えゆく煙……我にし似るか 154
 謎に似る 157
 かの城址に寝にゆきしかな 158
 草に寝ころびて空に吸はれし 159
 小鳥に石を 164
 石に腰掛け 165
 その後に我を 166
 欄干に最一度 172
 西風に内丸大路の 174
 けふの日に到り着きたる 176
 少年の眼に羨みき 177
 知識の欲に燃ゆる眼を 179
 我に薦めし友早く 180
 自が才に身を 182
 都に曝し 184
 友年になり 193
 音楽のことにかかりき 195

- 四方に散り行きぬ 196
 友にうち明けし 197
 人ごみの中にそを聴きにゆく 199
 ふるさとにゐて 201
 柁屋根に我が 203
 草に埋もれしらむ 204
 二日前に山の……今朝になりて 206
 秋に入れるなり 208
 秋の夜に焼く餅の 209
 ふるさと人に心寄する日 211
 よろこぶにまさるかなしみは 213
 岸辺目に見ゆ 215
 登記所に来て 217
 盆の祭に衣貸さむ 220
 目に見ゆ 223
 ふるさとに来て 224
 戦に出でしが 225
 宗次郎におかねが泣きて 227
 噂に立てる 228
 猿に飽きし後 229
 年ごとに肺病やみの……村に迎へし 232
 川にゆかむと……山路にさそふ人にて 233
 花に降る……都の雨に 234
 心に照れり 235
 きたなき恋に身を 239
 わがためになやめる魂を 240
 今は何処に何を 241
 夜に折りゆきし 242
 わが村に初めて 243
 はるかに北にふるさとの 245
 ふるさとに入りて 247
 窓に立てるかな 248
 かの窓にこそ 249
 ふるさとに来て 250
 胡桃の下に小石拾へり 251
 山に向かひて 252
 高き屋にひとりこのぼりて 253
 秋来といふに物を 254
 青に透く……玉に枕して 256
 水にかも似る 261
 丘にのぼれば 262
 耳に入る 264
 目になれし 265
 世に尽きて 266
 御廊に……夢にみしかな 268
 日記に残れり 271
 夜にし老ゆらし 272
 草に埋るるがごと 273
 揺籃に寝て……夢にみし人か 274
 眉にせまりし 275
 饑ゑある日に細き尾を 279
 我に来れる 281
 石に踞し 282
 人ひとり得るに過ぎざる 284
 友に会ふごとき 287
 大空に火を 288
 野に満つる虫を 289
 家持たぬ兒に 290
 半ばになりぬ 292
 秋の雨に逆反りやすき 294
 石馬の耳に 295
 香りに秋やや深し 296
 人によく似し 297
 木のうろに白ひく侏儒の国にかも来し 298
 そが中に火や守りけむ 299
 戈壁の野に住みたまふ神は 300
 あめつちにわが悲しみと 301
 ふるさとに来て 303
 辺土に住みし 308

- 船に酔ひて 309
 欄干に糞塗りし 311
 友われに飯を……その友に 314
 肩にころひかれき 316
 大森浜に思ひしことも 318
 山に入りなき 324
 口にくはへて……夜霧に立ちし 325
 演習のひまにわざわざ汽車に乗りて 326
 我が腸に沁みに 332
 窓に別れたる 333
 雨に濡れし夜汽車の窓に映りたる 334
 俱知安駅に下りゆきし 336
 札幌にかの秋われの 337
 街樾にポプラに秋の風……日記に残れり 338
 いさかひに初夜過ぎゆきし 340
 柵に乾して 341
 殴らむといふに殴れと 350
 この咽喉に剣を……告別の辞に言へりけり 351
 わが妻に着物縫はせし 354
 吹雪にぬれし 355
 樺太に入りて 357
- 世の事無きに飽きたりと 358
 頬に涙を 360
 停車場にわれ 361
 わかれといふに 362
 汽車に読みし 364
 死にゆくごと 365
 雪に流れて 368
 汽車にのむ煙草かな 369
 鳴るに思ひやふれき 370
 列車の窓に花のごと 374
 雪に埋れて……林に入ひとりあき 376
 雪のなかに長き一生を 377
 汽車に疲れて 378
 処処に屋根見えて……空にまよへり 380
 とある森林に入る 381
 汽車のひびきに心まかせぬ 382
 駅に下り立ち……町にあゆみ入りなき 383
 火に鬩し 385
 昔に交らざる 386
 身に沁みき厨に酒の 389
 わが酔ひに心いためて 390
 雪の中に立つ 392
- 悪酒の酔ひにたふるるまでも 395
 酔ひぎめの面に強ひて 397
 腕に残せし 398
 明るき家にかよひ慣れなき 400
 寒さに踏めば 401
 その膝に枕しつつも 402
 波に鳴る 403
 十年まへに作りし……旅に老いし友 405
 二月の湾に白塗の 407
 大雪の夜に 408
 郷里にゐて……女の三味にうたへるゆふべ 410
 手帳にのこりたる 411
 思ひに似たる 412
 わが室に女泣きしを 413
 夢にふと 415
 大理石に春の日の 418
 今も目にあり 419
 かの時に……胸にのこれど 420
 君に見たりし 423
 思ひ出の種にまたなる 426
 こなたに我は 427
 君に似し姿を街に見る時の 428

- 死ぬまでに一度 432
 年ごとに恋しく 434
 三年のうちに三度 436
 湯槽のふちにうなじ載せ 439
 齒に沁む朝の 440
 色にしたしまぬ目の 442
 古文書のなかに見いでし 445
 手にためし 446
 雨とに曇りたる 449
 目にやはらかき 451
 むらさきに見えて 452
 煉瓦造にやはらかに 453
 煉瓦の壁に降りて 454
 窓にしめやかに 455
 棚に重ねる 462
 ところに沁みて 465
 息のくもりに消されたる 467
 厨にのこるハムの 468
 顔にありたる 471
 大川の遊船に 472
 街に出てゆく 473
 硝子屋の前にながめし 476
 君来るといふに……気にする日かな 477
- 事務室にけたたましく 480
 耳に入り来る 481
 さびしきに行く 482
 小径に赤き 484
 杉生のなかに斑なる 485
 曇硝子にうつりたる 487
 軒に冬の 488
 電車のなかに吹き入れし……手にとりて 491
 海に來ぬ……たへがたき日に 492
 海につかれて 493
 恋にやぶれて 494
 窓におもひたる 497
 窓に弄ぶ 499
 酒に射し入る 500
 沼に咲くごとく……酔ひのあひだにはつきりと 501
 壁ごしに若き女の 502
 にほひ身に沁む 503
 気にしたる 504
 行李の底にさがす日 507
 著者に路にて 508
 その片隅につらなれる島島の上に秋の 510
- 目につく 511
 長椅子の上に眠りたる 513
 其処ら其処らに虫の鳴く昼の野に來て 514
 火桶に炭添へにけり 517
 ランプの笠に……寒き夜にする 519
 かなしみに葱の香などの 518
 停車場に入り 523
 深夜に語る 525
 霜にこぼれし 527
 とある小藪に頬白の 528
 空氣にあたらしく 529
 公園に來て 532
 ひさしぶりに公園に來て友に會ひ 533
 木の間に小鳥あそべるを 534
 公園に來て 535
 ベンチに二度ばかり 537
 捨椅子に思ひあまりて 539
 今日街に捕吏にひかれて 540
 窓にもたれて 542
 城址にさまよへるかな 543
 いまはのきはに微かにも泣きしといふに 545
 胸に注射の……手もとにあつまる心

- 謎に對ひて……死児のひたひに 548 549
 心にうかぶ 553
 探しに行きぬ。秋の夜ふけに。 555
 遊びに出て 556
 妻に言ひて 557
 霧の中にのぼるを 560
 顔にかかれり。 562
 挿絵に眺め入り、 564
 電車のなくなりしに、 565
 二晩おきに、夜の一時頃に切通の坂を 566
 酒のかをりにひたりたる 567
 夜中に起きて、 570
 出窓に出でて、欄干の霜に手先を 571
 勝手になれと 572
 下に於て 574
 おくつきに詣つるごとし。郊外に来ぬ。 578
 故郷にかへる……汽車に乗りしに。 579
 言葉に嘘は 580
 山に来ぬ。 582
 心に対ふが 584
 正月にかへれるごとし。 588
- 文に書いて 591
 四日になりて……年に一度の 592
 世におこなひがたき 593
 方角に向いて 594
 火鉢によりかかり、 597
 元日といふにうとうと 599
 つゆに染まりたる 601
 もどかしさに似たる 602
 口に入れたる 603
 誰にともなしに。 604
 もとの道にはまり来れり。 605
 家にかへる……待つことにして、 607
 襟に……夜ふけに立ちどまりて 611
 処処にあり—— 612
 事をはかるに適せざる、 615
 年若き人に、半日も 617
 ひと晩に咲かせて……火に焙りしが、 619
 金かりに行く。 622
 此処に委へしは。 623
 ここにおれの歌の 624
 足もとに落ちて 625
 何処に蔵ひしかと氣にかかるかな。 627
- 手の中にありしに。 629
 原稿紙にでなくては 631
 外に欲もなき 632
 何処にゐるらむ。 635
 目にはてもなき 639
 寝台の上に来て 640
 医者に言はれて、 641
 真夜中にふと 642
 返事のなきによく見れば、 643
 窓にもたれて、久しぶりに 644
 窓にもたれて煙草を 645
 病院に入りて……夜といふに、 648
 寝台に、ひとり、 650
 寝台の上にとつと 653
 窓によりつつ、 654
 夢に母来て 655
 病院に来て、……我にかへりけるかな。 658
 嘘にしてみれど、 661
 軍人になると……父母に苦勞させたる 662
 馬にのれる……胸に描ける。 663
 子供にでも 666
 目にかなくも 668

胸に手を 670
 ちつと見し外に何も 671
 胸にあつまる。 672
 本の重さにつかれたる 673
 妻に語れる。 675
 葉に噓せて、 676
 色のうれしさに、 677
 夜半の寢覚に。 679
 夢に閑古鳥を 682
 夢にきけるかな。 683
 いただきに來て 685
 医者に叱られし 686
 記憶に残りぬ― 687
 力なき眼に愛でし 689
 心我に在り。 692
 たのしみに思ふ 694
 我にあゆみ寄り、 696
 口に絶たねば。 697
 遠きものに思ひし 698
 かかる目に……成るがままに成れと 699
 月に三十円も 700
 胸に痛みあり。……ふるさとに行きて 701

目にころよき 702
 目に見えて、 704
 まくら辺に子を 706
 うるさきものに思ひるし間に、……五 707
 歳になれり。 710
 わが側に來て 712
 目に沁むも 714
 ひさしぶりに、母に叱られしを 717
 長き病に。 718
 或る市にゐし頃の……恋がたりに嘘の 724
 ひさしぶりに、……可笑しさに。 725
 五歳になる子に、 728
 不和のあひだに身を 729
 下宿屋にやりて 731
 妻子の留守に。 732
 庭に小蟻と 733
 葉つきたる朝に來し 738
 寝顔にさはりて 739
 皮膚に親しき。 741
 枕辺に人形を 742
 椽先に……ひさしぶりに、……空にし 744
 たしめるかな。 745
 妻にはかれる。 745
 にうわ・なり(柔和なり)

にうわ・なる 379
 にかい(二階) 713
 にかほ(肖顔) 12
 にき(日記) 80
 271
 338
 にきは・し(賑し) 80
 271
 338
 にきは・しき 459
 にきはひ(賑ひ) 22
 にぎ・る(握る) 362
 533
 696
 にぎ・り 362
 533
 696
 にぎ・る 8
 690
 にぎ・れ 8
 に・ぐ(遁ぐ) 158
 に・げ 用 158
 に・ぐ(逃ぐ) 用 158
 に・げ 用 706
 にく・し(憎し) 用 55
 にく・かり 用 28
 にく・き 28
 にく・む(憎む) 352
 362
 506
 にく・め 巳 667
 にぐわつ(二月) 407
 にげ・く(遁げ來) 53
 にげ・くる 53

にげさ・る (逃げ去る)
 にげさ・れ 日 88 88
 にさんきやう (二三行) 624
 にじ (二時) 151 516
 にしかぜ (西風) 174
 にして
 わが旅にしてなせしごとくに
 にしやく (二尺) 541 219
 につくわう (日光) 84
 にて
 その日はそれにて心なごみき
 ピストルにて撃てよかし 150 119
 口の中にてたふとげの 323
 国の果にて 386
 国のはてにて酒のみき 387
 路にて会へる 508
 胸の中にて鳴る音あり。 552
 途中にてふと 554
 途中にて乗換の 565
 久し振りにて汽車に 579
 途中にて口に 603
 田舎にては、 700
 にど (二度) 537 674
 には (庭) 242 267 451 515 714 733 745

に・は
 平なる心には時計の 32
 実務には役に立たざる 56
 寐飽きたる心には沁む 446
 戸の面には羽子突く音す。 588
 にはいし (庭石) 138
 にはか・なり (俄かなり) 138
 にはか・に 149 206 433
 にほひ (匂ひ) 92 209 339 458 463 468 503 714
 にほひ・す (匂ひす) 112
 にほひ・す 448
 にほ・ふ (匂ふ) 448
 に・も
 三月にもなれり 41
 あるくにも腹に 89
 それにも心いたまむと 130
 その心にもなりて 135
 さほどもなきを 139
 初恋の日にもありきと 286
 友にも会ひき 386
 窓硝子にもかなしみはあり 449
 記事にも涙出でたり。 614
 笑ふにも笑はれざりき—— 629

その間にも、猶、 704
 その親にも、親の親にも似るなかれ 708
 によと 621
 いら・む (睨む) 125
 いら・む 体
 なる (似る)
 に 17 28 70 95 117 163 297 412 428 591 602 611
 なる 終 261
 なる 体 154 157 708
 なる (煮る)
 なる 体 108
 になきやう (人形) 742
 になげん (人間) 126 669
 【ぬ】
 ぬ
 な
 泣きなむと 3
 見せなむ 150
 舞ひなむ 281
 語り出なむ 431
 家を出でにき 3

讃めてみたくなりにけり 48
 金借りにけり 56
 いやなりにけるかな 64
 慣れにけるかな 68
 殺したくなりにけるかな 98
 立ちにしが 120
 知らで責めにき 157
 流行らずなりにけるかな 175
 おもひ過ぎにき 191
 踏みにける 268
 癖となりにき 283
 山に入りనికి 324
 沁みにけらしな 332
 あゆみ入りにき 383
 舞ひనికి 395
 かよひ慣れనికి 400
 おもひ出にけり 472
 秋となりにけり 483
 炭添へにけり 517
 葉書も来にけり。 592
 こはしやしにけむ。 716
 ぬ
 ピストル出でぬ 4
 肖顔つくりぬ 12

耳斬りてみぬ 23
 顔をしてみぬ 24
 ふと驚きぬ 38
 ながながと呖呻しぬわれも真似しぬ
 60
 ふつと思ひぬ 68
 とのみ見てゐぬ 72
 噛みてみたくなりぬ 75
 友とわかれぬ 97
 威張りて帰りぬ 100
 合槌うちてゐぬ 107
 耳につき来ぬ 109
 思ひすぎしぬ 116
 障子をはりかへぬ 119
 廊下に立ちぬ 121
 さまよひて来ぬ 127
 夢みて覚めぬ 151
 口笛吹きぬ 162
 校を退きぬ 180
 散り行きぬ 196
 子を挙げぬ 219
 日入りぬ 257
 暮れゆきぬ 259
 紐を浮べぬ 260

涙わすれぬ 267
 朝を思ひぬ 275
 半ばになりぬ 292
 夜昼ひびきぬ 295
 木伝ひぬ 297
 さまよひ行きぬ 302
 おもひ出でぬ 307
 なかば忘れぬ 322
 思ふ日も来ぬ 352
 心まかせぬ 382
 涙ながれぬ 385
 このごろ聞きぬ 404
 吸いたくなりぬ 406
 三度来ぬ 436
 いつはること知りぬ 438
 おもひ出でぬ 441
 長くわすれぬ 443
 夕となりぬ 458
 雪ふりいでぬ 479
 海に来ぬ 492
 出でゆきぬ 523
 帰り来ぬ 526
 おどろきぬ 536
 吹きてみぬ 542

- 残りるぬ 551
 探しに行きぬ 555
 思ひ湧き来ぬ 561
 郊外に来ぬ 578
 山に来ぬ 582
 欠伸してみぬ 590
 用を忘れ来ぬ 603
 舌を出してみぬ 604
 落ちてゐぬ 625
 胸を引きぬ 656
 うたがひぬ 679
 記憶に残りぬ 687
 ペンを取りぬ 720
 笑ひてみぬ 725
 真似をしてみぬ 732
 泣いて、寝入りぬ 739
 思ひて起きぬ 740
 ぬれ
 かへり来ぬれば 444
 ぬか(額) 27
 ぬく(抜く)
 ぬ・き 231
 ぬ・け 92
 ぬ・ぐ(脱ぐ)
- ぬ・ぐ 体 437
 ぬぐひあ・ふ(拭ひ(敢)ふ)
 ぬぐひあ・へ 未 102
 ぬく・む(温む)
 ぬく・め 已 681
 ぬくもり(温もり) 551 741
 ぬすみき・く(盗み(聞)く)
 ぬすみき・か 656
 ぬす・む(盗む)
 ぬす・む 終 136
 ぬすみくせ(盗癖) 222
 ぬ・ふ(縫ふ)
 ぬ・は 354
 ぬま(沼) 501
 ぬれゆ・く(濡れゆく)
 ぬれゆ・く 体 267
 ぬる(濡る)
 ぬ・る(濡る) 278 334 355
 ぬ・れ 用
 ぬ・る(塗る)
 ぬ・り 311
 ぬるさ(温さ) 373
 【ぬ】
 ね(根) 484 546
 ねあ・く(寐飽く)
- ねあ・き 446
 ねあせ(盗汗) 652
 ねい・る(寝入る)
 ねい・り 648 739
 ねがひ(願ひ) 195
 ねが・ふ(願ふ)
 ねが・は 692
 ねが・へ 已 657
 ねがほ(寐顔) 372
 ねがほ(寝顔) 739
 ねき(葱) 519
 ねこ(猫) 513 520 621 730 730
 ねころ・ぶ(寝ころぶ)
 ねころ・び 159
 ねざめ(寝覚め・寝覚) 573 573 615 679
 ねだい(寝台) 640 650 653
 ねつ(熱) 668 678 719
 ねむけ(眠気) 602 628
 ねむ・し(眠し)
 ねむ・し 599
 ねむた・し(眠たし)
 ねむた・き 600
 ねむり(眠り) 45 192 451
 ねむ・る(眠る)

- 海綿の重さに 70
 心の底の暗きむなしさ 71
 人の語るを 72
 かの船のかの航海の船客の一人にて 74
 目の前の菓子皿などを 75
 若き男の死にたらば……この世のさびしくもなれ 76
 浅草の凌雲閣のいただきに腕組みし日の長き日記かな 80
 尋常のおどけ 81
 こそこその話が 82
 子供のやうに……恋ある人のなさぬ業かな 83
 日光のあたたかさあり 84
 牛のよだれは 85
 路傍の切石の上に 86
 病ある獣のごとき 88
 おほどかの心……腹に力のたまるが 89
 宿屋の夜具のころよさかな 90
 乞食の卑しき 91
 インクのにほひ 92
 喉のかわきを……夜寒の夜具に 93
 友の二人よ 95
 妻のため 96
 人並の才に……わが友の深き不平も 99
 行末の事みゆるごとき 102
 水晶の玉を……何の心ぞ 104
 わがごころの物足らぬかな 105
 水晶の玉を 106
 ある朝のかなしき夢のさめぎはに 108
 頭のなかに……土のくづるる 110
 電話の鈴の鳴るごとく 111
 袷の襟よ……ふるさとの胡桃焼くる 112
 一隊の兵を……彼等のうれひ無げなる 114
 邦人の顔たへがたく 115
 この次の休日に 116
 或る時のわれのころを焼きたての麵 117
 麵に 119
 ある日のこと室の障子を 119
 馬の嘶きし 120
 赤のインク吸ひ 122
 水のごと 124
 蠟燭の火に 125
 人間のつかはぬ言葉 126
 電車の中に 130
 人みなのおどろくひまに 133
 人のころに 134
 女のごとき……よわき男の感ずる日なり 137
 昔のわれの怒りいとしも 138
 わが日の本の女等を秋雨の夜に 142
 秋の風吹く 144
 初秋の風 145
 秋の風 146
 真直の街を 147
 伊藤のごとく 149
 秋の夜の二時 151
 病のごと思郷のころ……あをぞらの煙かなしも 152
 十四の春に 153
 かの旅の汽車の車掌が……中学の友 155
 唧筒の水の心地よさよ 156
 わが学業のおこたりの因 157
 教室の窓より 158
 不來方のお城の草に……十五の心 159
 物の味我の嘗めしは 160

- 十五の私の歌にし 162
 髯の似たるより 163
 後備大尉の子も 164
 城址の石に腰掛け禁制の木の実を 165
 学校の図書館の裏の秋の草 167
 白の服着て 168
 姉の恋人のおとうとと 169
 若き英語の教師も 170
 盛岡の中学校の露台の欄干に 172
 かの路傍の栗の樹の下 173
 内丸大路の桜の葉 174
 そのかみの愛読の書よ 175
 我けふの日に 176
 少年の眼に……小鳥の飛ぶを 177
 蚯蚓のいのちも……かの校庭の木柵の
 下 178
 知識の欲に 179
 蘇峯の書を……まづしさのため 180
 博学の師を 181
 身をあやまちし人のこと 182
 そのかみの学校一のなまけ者 183
 旅の姿を 184
 茨島の松の並木の街道を 185
 恋のあまさと 188
- 酔漢のごとく 189
 人ごみの中を……わが友のむかしなが
 らの太き杖かな 190
 年賀の文を 191
 昔のごとく 192
 秀才の名の高かりし……秋のかぜ吹く
 193
 茂雄の恋も 194
 わが妻のむかしの願ひ音楽のことに195
 夜のことなど 197
 紙鷲のごとくに若き日の心かろくも
 198
 ふるさとの訛なつかし停車場の人ごみ
 の中に 199
 獣のごとき……ふるさとのこと 200
 雀の鳴くを 201
 地理の本など 202
 小学校の柵屋根に 203
 ふるさとのかの路傍のすて石よ 204
 赤き緒の下駄など 205
 山の絵見しが……ふるさとの山 206
 飴売のチャルメラ 207
 ふるさとのことを 208
 郷里のことなど……秋の夜に焼く餅の
- にほひかな 209
 おもひでの山おもひでの川 210
 私の教へし 212
 子等の相会ひて 213
 北上の岸辺目に 215
 ふるさとの村医の妻のつつましき 216
 かの村の登記所に 217
 小学の首席を……友のいとなむ 218
 ある年の盆の祭に 220
 うすのろの兄と不具の父もてる 221
 栗毛の仔馬……母の無き子の盜癖かな
 222
 大形の被布の模様赤き花……六歳の
 日の恋 223
 意地悪の大工の子なども 225
 極道地主の総領のよめとりの日の春の
 雷かな 226
 大根の花 227
 小心の役場の書記の気の狂れし……ふ
 るさとの秋 228
 野山の猟に 229
 そのかみの友 230
 肺病やみの殖えてゆく 232
 馬鈴薯のうす紫の花に降る……都の雨

- 金のごと 234
 性悪の巡査の子等も 236
 友のやまひのいかに 237
 ふるさとのたより 238
 男のごとき 241
 わが庭の白き躑躅を薄月の夜に 242
 イエス・クリストの道を 243
 好摩の原の停車場の朝の虫こそ 244
 汽車の窓……ふるさとの山 245
 ふるさとの土を 246
 そのかみのわが学舎の窓に 248
 かのかみの窓にこそ春の夜を 249
 そのかみの神童の名のかなしきよ 250
 ふるさとの停車場路の川ばたの胡桃の
 下に 251
 ふるさとの山に……ふるさとの山は 252
 ふるさとの空 253
 涙の繁に 255
 かなしみの玉に……松のひびきを 256
 七山の杉火のごとく 257
 いにしへ人の心よろしも 258
 悲しみの日は 259
 くれなるの紐を浮べぬ秋雨の後 260
- 秋の辻四すぢの路の三すぢへと……風
 のあと 263
 秋の声まづいち早く 264
 庭の面の濡れゆくを 267
 ふるさとの寺の御廊に……小櫛の蝶を 268
 いとけなき日の我となり 269
 黍の葉鳴れるふるさとの軒端なつかし
 肩のひまより 270
 泡雪の玉手さしまく 271
 岩手の山の初雪の眉に 272
 前栽の萩のすこしく 275
 秋の空 277
 雨後の月……屋根瓦のそのところどこ
 ろ 278
 犬の面よし 279
 人のあらじか 280
 ああ酒のかなしみぞ 281
 そのかたはらの石に 282
 初恋の日にも 283
 水の音聴く 287
 秋の夜の鋼鉄の色の大空に 288
 ふもとの三方の野に 289
- 父のごと……母のごと 290
 恋ふる心のいとまなきよ 291
 人のおくり来し 293
 秋の雨に逆反りやすき弓のごと……君
 のしたしまぬかな 294
 松の風……山の祠の石馬の耳に 295
 朽木の香りそがなかの輦の香りに 296
 森の猿ども 297
 森の奥……木のうろに……侏儒の国に 298
 世のはじめ……半神の人そが中に 299
 戈壁の野に……秋の神かも 300
 秋の夜と 301
 夜の物の音洩れ来るを 302
 旅の子のふるさとに……冬の来しかな 303
 北の浜辺の砂山のかの浜薔薇よ 304
 年の若さを 305
 汽車の窓より……町の名なども 306
 函館の床屋の弟子を 307
 いもうとの目見ゆ津軽の海を 309
 傷心の句を……友の手紙のおどけ悲し
 も 310
 橋の欄干に 311

- 眼鏡の縁を 313
 我の性のかなしさ 314
 函館の青柳町こそ……友の恋歌矢ぐる
 まの花 315
 ふるさとの麦のかをりを……女の眉に 316
 洋書の紙の香を 317
 しらなみの寄せて……函館の大森浜に 318
 支那の俗歌を 319
 漂泊の愁ひを……草稿の字の読みがた
 さかな 320
 わが来しかたのをかしく悲し 321
 函館の臥牛の山の半腹の碑の漢詩も 322
 口の中にたふとげの事を 323
 神のごとき友 324
 磯の夜霧に 325
 演習のひまに 326
 大川の水の面を……君のなやみを 327
 人人のあつまりて 329
 年上の友 330
 数人の父と 331
 夜汽車の窓に 333
- 夜汽車の窓に……山間の町のともしび
 の色 334
 夜の汽車のたえまなく 335
 真夜中の俱知安駅に……女の鬢の古き
 痕あと 336
 われの持てゆきし 337
 アカシヤの街櫺に……秋の風 338
 街の秋の夜の玉蜀黍の焼くるにほひよ
 わが宿の姉と妹のいさかひに……札幌
 の雨 339
 石狩の美国といへる停車場の柵に 340
 小樽の町よ……人人の声の荒さよ 341
 手の相を…… 342
 いささかの銭借りてゆきしわが友の後
 姿の肩の雪かな 343
 世わたりの拙きことを 344
 謀叛気のかたまりなりと 345
 かの年のかの新聞の初雪の記事を 346
 かの友の酔ひも 347
 あらそひの因も 348
 昔の我のいとほしさかな 349
 告別の辞に 350
 かの眉の秀でし 351
 353
- 鬼のごとくに 356
 世の事無さに 358
 共同の粟屋開き 359
 雪の吹き入る……妻の眉かな 361
 汽車の窓より 363
 石狩の野の汽車に……ツルゲエネフの
 物語かな 364
 後の噂を 365
 つめたきものの頬を 366
 雪の野の汽車に 367
 曠野の汽車の窓を 368
 長路の汽車に 369
 乗合の砲兵士官の剣の鞘 370
 ゆかりもなき土地の宿屋安けし我が家
 のごと 371
 かの代議士の口あける 372
 宿屋の茶のぬるさかな 373
 列車の窓に花のごと……あかつきの色
 374
 凧のあと 375
 岸辺の林に 376
 雪のなかに 377
 我のいとほしさなりき 378
 駅の名呼びし……若き駅夫の眼をも 379

- 雪のなか……煙突の煙うすくも 380
 汽車のひびきに 382
 さいはての駅に 383
 釧路の海の冬の月かな 384
 インクの蠟を……としびの下 385
 国の果にて 386
 かの国のはてにて……かなしみの滓を 387
 出しぬけの女の笑ひ……酒の凍る真夜中 389
 女のやはらかき耳朶なども 391
 深夜の雪の中に立つ女の右手のあたたかさかな 392
 咽喉の痕を 393
 悪酒の酔ひに 395
 いろいろのかなしきことを 396
 酔ひざめの面に 397
 かの白玉のごとくなる……キスの痕かな 398
 虫のごとくにもしびの明るき家に 400
 かへりの廊下の不意のくちづけ 401
 我のことなり 402
 氷の屑が……磯の月夜のゆきかへりか 403
 な 403
 二月の湾に白塗の外国船が 407
 三味線の絃のきれしを火事のごと……大雪の夜に 408
 神のごと……阿寒の山の雪のあけぼの 409
 女の三味に 410
 葡萄色の古き手帳に……かの会合の時と 411
 足袋穿く時の気味わるき 412
 小説のなかの事かと 413
 頬の寒き流離の旅の人として路問ふほどのこと言ひしのみ 416
 それだけのこと 417
 春の日の静かに 418
 世の中の明るさのみを……黒き瞳の今も 419
 大切の言葉は 420
 ランプの笠の瑕のごと流離の記憶 421
 函館のかの焼跡を去りし夜のこころ残り 422
 鬢のはつれのめでたさを物書く時の君に 423
 馬鈴薯の花咲く 424
 山の子の山を思ふが 425
 思ひ出の種に 426
 四百里のこなたに 427
 街に見る時のこころ躍りを 428
 生活のなかの時折のこの物おもひ誰のためぞも 430
 君のことなど 431
 石狩の都の外の君が家林檎の花の散りてや 435
 三年のうちに……私の書きしは 436
 思ひ出のあり 437
 朝の湯の湯槽のふちに 439
 うがひ薬の病ある齒に沁む朝のうれしかりけり 440
 キスが上手の女なりしが 441
 色にしたしまぬ目のゆゑと 442
 読む夜半のそのたのしさも 443
 わが窓の赤きインクの染みも 444
 古文書のなかに 445
 雪の融くるが 446
 障子の日影 447
 菓の香のにはふ……住みたるあとの家かな 448
 春のねむりを……庭の草かな 451

- 高塀のむらさきに見えて春の日ながし
452
- 春の雪銀座の裏の三階の煉瓦造に
453
- 煉瓦の壁に……春の雪かな
454
- 若き女の倚りかかる……春の雨降る
455
- 木のかをりなど……新開町の春の静け
さ
456
- 春の街……女名の門札などを
457
- 蜜柑の皮の焼くるごとき
458
- 若き女の集会のこと聴き倦みて
459
- 若き女の死ぬごとき……春の雲降る
460
- コニヤック酔ひのあととなる……このか
なしみのすずろなるかな
461
- 酒場の隅のかなしき女
462
- 冬の大路の何処やらむ石炭酸のにはひ
463
- 河ばたの酒場の窓の白き顔かな
464
- サラダの皿の酢のかをり
465
- 空色の鱈より山羊の乳……手のふるひ
など
466
- すがた見の息のくもりに……酔ひのう
るみの眸のかなしき
467
- ゆふぐれの厨にのこるハムのにはひか
な
468
- 繰のならべる棚の前
469
- 深夜の街の遠き火事かな
470
- 病院の窓のゆふべのほの白き
471
- かの大川の遊船に
472
- おほよそのわが思ふことも
474
- 夏の来るを……雨後の小庭の土の香を
475
- 硝子屋の前に……夏の夜の月
476
- 白シャツの袖のよごれを
477
- 我が弟のこのごろの眼のうるみなど
478
- 夜の事務室に……電話の鈴の鳴りて
480
- 真夜中すぎの話しかな
481
- 朝朝のうがひの料の水菜の鱈が
483
- 麦の青める丘の根の小径に
484
- 裏山の杉生のなかに……秋のひるすぎ
485
- 小春日の曇硝子に
487
- 家の高低の軒に冬の日の舞ふ
488
- 京橋の瀧山町の新聞社灯ともる頃のい
そがしさかな
489
- わが父の日ごろ怒らず
490
- 電車のかなかに……柳のひと葉
491
- 町の女のどれもこれも
494
- 汽車の旅とある野中の停車場の夏草の
香のなつかしかりき
495
- 初秋の旅出の汽車の堅き麴かな
496
- かの旅の夜汽車の窓に……我がゆくす
ゑのかなしかりしかな
497
- とある林の停車場の時計とまれり雨の
夜の汽車
498
- 夜の汽車の窓に
499
- この酒肆のかなしきよ
500
- 酔ひのあひだに
501
- 若き女の泣くをきく旅の宿屋の秋の蚊
帳かな
502
- 去年の袷のなつかしき……初秋の朝
503
- 左の膝の痛みなど……秋の風吹く
504
- ドイツ語の辞書のみ残る夏の未かな
505
- 秋の暮れゆく
506
- 赤紙の表紙手擦れし国禁の書を行季の
底に
507
- 本の著者に……秋の朝かな
508
- 秋の風吹く
509
- 大海のその片隅に……鳥島の上に秋の

- 風吹く 510
 目の下の黒子のみ……友の妻かな 511
 毛糸の玉を 512
 葡萄色の長椅子の上に……秋のゆふぐれ 513
 虫の鳴く昼の野に来て 514
 夜の二時の窓の硝子を……火事の色かな 516
 夜半の火桶に 517
 ランプの笠に 518
 水のごと……葱の香などのまじれる夕 519
 猫のまねなど……三十路の友のひとり 520
 住みかな 520
 斥候のごと……深夜の街を 521
 眠れる街の重き靴音 522
 東京の夜を 526
 銀行の窓の下なる舗石の霜に 527
 頬白の遊ぶを眺む雪の野の路 528
 十月の朝の空気に……赤坊のあり 529
 十月の産病院のしめりたる長き廊下のゆきかへりかな 530
 むらさぎの袖垂れて……公園の午後 531
 孩児の手ざはりのごとき 532
 公園の木の間 534
 晴れし日の公園に……このごろの衰へを 535
 思出のかのキスカ……プラタスの葉の散りて 536
 公園の隅のベンチに 537
 公園のかなしみよ君の嫁ぎてより 538
 公園のとある木蔭の捨椅子に 539
 二尺ばかりの明るさの中を……白き蛾のあり 541
 寐られぬ夜の窓に 542
 大根の根の肥ゆる頃……死にし児のあり 546
 おそ秋の空気を……わが児の死にゆきしかな 547
 児の胸に注射の針を刺す医者の手もと 548
 死児のひたひに 549
 かなしみの強く……わが児のからだ 550
 児の肌のぬくもり 551
 胸の中にて 552
 秋の夜ふけに。 555
 玩具の機関車。 556
 あてつけのつもりでは 557
 夫の心！……妻子の心！朝の食卓！ 559
 用のある人のごとくに 559
 冬の霧の中に 560
 深夜の町町。 561
 冬の朝かな。 562
 手の爪を切る。 563
 本の挿絵に……煙草の煙 564
 乗換の電車 565
 夜の一時頃に切通の坂を 566
 酒のかをりに……脳の重みを 567
 胸のむかつく 568
 酔ひのさめたる 570
 真夜中の出窓に……欄干の霜に寝た方の腿のからきしびれを。 571
 汽車のごとくに……私の心を郷里の新聞ひろげつつ……今朝のかなしみ。 576
 何の心ぞ。 577
 初恋人のおくつきに 578
 明日の来るを……自分の言葉に負債のごとく 583
 この頃の自分の心に 584
 580

- 洗ひし時のかすかなる……今日の満足
なりき。 585
- 戸の面には……去年の正月に 588
- 元日の朝、 589
- 腹の底より……今年の元日。 590
- いつの年も、……年賀の文に 591
- 正月の四日になりてあの人の年に一度
の葉書も 592
- われの頭よ！ 593
- 蠟燭の燃えつくるとく、 596
- 青塗の瀬戸の火鉢に 597
- 一年のつかれ 599
- 元日の午後の眠たき心。 600
- 蜜柑のつゆに 601
- 眠気の返事きくまでのそのもどかしさ 602
- ゼムのためなりし。 603
- もとの道に 605
- 四日ばかりも前の朝なりし。 606
- ただ一つの待つことに 607
- いろいろの人の思はく 608
- この新聞の主筆ならば……いろいろの
事！ 609
- 石狩の空知郡の牧場のお嫁さんより
- 外套の襟に 610
- 古日記の処処に……あの人の事なりし
かな 611
- 百姓の多くは 612
- 直ぐの心よ！ 年よりの家出の記事に
も 614
- 梅の鉢を 619
- 気持のよさを、 620
- 猫の耳を……子供の顔かな。 621
- 来る筈の人の来ぬ日なりき、机の位置
を 623
- おれの歌の事を 624
- 引越しの朝の足もとに……女の写真！ 625
- 仮名ちがひの多きことかな、昔の恋
文！ 626
- 八年前の今のわが妻の手紙の束！ 627
- 癖のかなしさよ！ 628
- ナイフの手の中に 629
- 我が児のあどけなさ！ 631
- 晦日の晩かな。 632
- 気の済む心地にて 637
- 病人の目に 639
- この寝台の上に 640
- 欲しくないのかと、 641
- 返事のなきに……隣りの患者。 643
- 病室の窓に 644
- 晴れし日のかなしみの一つ！ 病室の
窓に 645
- 何処やらの室の騒がしきは 646
- 看護婦の手の、 647
- 初めての夜と 648
- えらい人のやうに 649
- 病院の寝台に、 650
- あけがたのまだ 652
- 寝台の上に 653
- 病院の窓に……いろいろの人の元気に
654
- お前の心底を 655
- 看護婦の徹夜するまで、 657
- まことの我に 658
- 嘘のかたまりの如く 660
- 今までのことを 661
- 昔の我かな。 662
- 弟のごとく 664
- 医者はいふ日かな。 666
- 氷囊の下より 667

- 春の雪……熱のある目に、 668
 人間のその最大のかなしみが 669
 回診の医者が遅さよ！ 670
 医者顔色の……胸の痛み 671
 さまざまの泣きたきことが 672
 本の重さに 673
 金側の時計を 674
 本のこと、表紙のことなど、 675
 春の霽の降る日なり。 676
 サラドの色のおれしさに、 677
 熱高き日の癖と 678
 運命の来て……蒲団の重き夜半の寢覺 679
 めに。 679
 氷囊のとけて 681
 波民村の山莊をめぐる林のあかつき 684
 ふるさとの寺の畔のひばの木のいただき 685
 手のふるひこそ 686
 看護婦の手のつめたさなども。 687
 かの病院の長廊下かな。 688
 寝たくなる時の力なき眼に 689
 握るだけの力も……我が手のいとほしきかな。 690
- わが病のその因るところ 691
 何の心ぞ。 692
 手術の傷の痕を 693
 革命のこと 697
 テロリストの悲しき心も——近づく日のあり。 698
 やみあがりの目に……雨の明るさ！ 702
 くすりの味も 703
 わが子の背丈 704
 われの日毎に 705
 親の親にも 708
 児の心なる。 709
 五歳の子かな。 710
 あらん限りの声を 711
 子の坐りたる。 712
 町の往来を 713
 インクの匂ひ、……庭の青めり。 714
 見つめてありし間のその思ひを、 715
 あの年のゆく春のころ、 716
 枕辺の障子あけさせて、 718
 家畜のごとき……高き日のたよりなき。 719
- 花活の花 720
- 女のごとく、わが妻の振舞ふ日なり。 721
 市にゐし頃の事として、友の語る…… 724
 嘘の交る 724
 蠅の両手を 725
 胸いたむ日のかなしみも、……煙草の如く、 726
 先刻の我を 727
 不和のあひだに 729
 争ひの種と 730
 牛の啼く……妻子の留守に。 732
 ただ一人のをとこの子なる 734
 母の今日また 735
 近所の子等と 736
 友のなさけの為替のかなしさ。 738
 電燈の球のぬくもりのさはれば指の皮膚に 741
 児の枕辺に 742
 妹の眼が 743
 ゆふべの空に 744
 庭のそとを 745
 のき(軒) 488
 のきは(軒端) 270
 のこ・す(残す)

のこせ 398
 のこし 422
 のこふ〔拭ふ〕
 のこは 2
 のこりゝある〔残りある〕
 のこりゝある 用 551
 のこゝる〔残る〕
 のこり 411 458 687
 のこゝる 体 468 505
 のこれ 巳 271 338 420
 のこす〔載す〕
 のせ 用 439
 ノスタルジャ 235
 のち〔後〕形
 ふるまへる後のさびしさは 54
 仕事をしたる後のこの疲れ 66
 その後に 166
 その後八年 196
 飽きし後 229
 秋雨の後 260
 わが去れる後の噂を 365
 のど〔喉〕 93
 のど〔咽喉〕 351 555
 のなか〔野中〕 495

のしゝる〔罵る〕
 ののしゝり 142 618
 のびゆゝく〔伸びゆく〕
 のびゆゝく 体 705
 のぶ〔延ぶ〕
 のべ 用 680
 のぶ〔伸ぶ〕
 のび 用 704
 のぼゝる〔登る・上る〕
 のぼり 34 253 566
 のぼゝる 体 560
 のぼれ 巳 262
 のみ
 思ひしのみ 39
 あけたてすとのみ見てゐぬ
 われのみ知れるごとく 126
 我のみは 181
 稀にのみ湧きし 255
 名のみ知りて 371
 それのみ昔に 386
 言ひしのみ 416
 明るさのみを 419
 辞書のみ残る 505
 黒子のみいつも 511

おこなひがたき事のみ考へる
 癖とのみ 678
 こころのみ険しくなれる 737
 のむ〔飲む〕
 のみ 40 103 211 229 387
 のむ 体 59 329 369 694 717
 のめ 巳 124 231 326 356 388 562 568 568
 のやま〔野山〕 229
 のりあひ〔乗合〕 370
 のりかへ〔乗換〕 565
 のゝる〔乗る〕 39 326 579
 のゝる 終 653
 のれ 巳 663 679
 のんど〔咽喉〕 393
 【は】
 は〔葉〕 174 270 536
 は〔歯〕 440 469 560
 は
 この砂山は何の 5
 なみだは重きものにし 9
 児の癖はかなしき癖ぞ 11
 友はわらへど 15

- 鳥は空に 27
 かなしきは飽くなき 43
 後のさびしきは何にか 54
 我はおもへり 59
 死にかねたるは 74
 思ひてゐしはわけもなきこと 79
 牛のよだれはたらたらと 85
 今日逃げ去れり 88
 餓ゑたる時は我も 91
 かなしきは喉の 93
 一人は死に一人は牢を 95
 このかなしみは拭ひあへずも 102
 その日はそれにて 119
 かうしては 120
 葉はなきか 124
 心はかなし 136
 あくる日はさほどにもなきを 139
 汝はかなしかり 140
 思想はすべて 144
 今日よりは彼の 146
 今日を持ちえたるかな 147
 我の嘗めしはあまりに 160
 口笛は十五の我の 162
 あの頃はともに 166
- 今は亡き 169
 今ははや 171
 大方は今は流行らずなりに 175
 姉は傷みき 179
 我のみはいつも 181
 今は真面目に 183
 三年ばかりは 191
 今はうたはず 195
 友はみな 196
 このごろは母も時時 208
 波民村は恋しかり 210
 かなしみはなし 213
 三太はかなし 221
 ノスタルジヤは金のごと 235
 おほかたは正しかり……たより着ける 235
 朝は 238
 今は何処に 241
 泣くはそのこと 250
 ふるさとの山はありがたきかな 252
 かなしきは秋風ぞかし 255
 悲しみの日は 259
 秋立つは水にかも似る 261
 山にはあれど 265
 風流男は今も昔も 272
- 熱き涙は初恋の 286
 秋はふもとの 289
 秋はいかめし……秋はなつかし 290
 神は秋の神かも 300
 話も友はかなしみてしき 311
 友は遊べり 328
 別れが今は物足らぬかな 333
 かなしきは小樽の町よ 342
 からだはすべて 346
 記事を書きしは我なりしかな 347
 今は醒めつらむ 348
 今は思へり 349
 旅出はかなし 365
 思ふは私の 378
 死にたくはないかと 393
 かなしきはかの白玉の 398
 思ひしはみな 402
 言葉はさりげなく 417
 静かに照るはかかる思ひならむ 418
 言葉は今も 420
 かなしき時は君を 425
 我はうつなかりし 427
 我の書きしは四度にか 436
 さびしきは色に 442

夜は葉の 448
 かなしみはあり 449
 心はまたも 482
 今よりは我も 509
 笑める男は 540
 わが友は今日も 543
 夜明くるまでは残りゐぬ 551
 あてつけのつもりではなけれど、
 五町ばかりは、用のある 559
 今朝は少しく、 563
 嘘はなけれど—— 580
 今年はいい事 589
 明日はよき事 598
 百姓の多くは酒を 613
 今日、議会を 618
 此処に変へしは。 623
 その頃は気もつかざりし 626
 あの頃はよく嘘を 633
 五年前は、かほど 634
 名は何と……姓は鈴木なりき。今はど
 うして 635
 『石川はふぶんな奴だ』 638
 騒がしきは人や死にたらむと、 646
 それは今朝—— 659

寝られぬ夜は人をにくめる。 667
 今日はずせか、 674
 見は見つれども—— 677
 今は思ふなり。 699
 田舎にては、楽に 700
 さびしきは何ぞ。 705
 かく汝が父は思へるぞ、 708
 かなしきは、(われもしかりき) 709
 かなしきは我が父！ 733
 我はかく育てり。 734
 ば 8
 握れば指の 16
 病めばはかなし 17
 少女等きかば病犬の 25
 洗へば心戯けたく 26
 気がつけば茶碗を 28
 憎き男に似たれば 41
 さびしくなれば出てあるく
 雨降ればわが家の 49
 聞けば腹立つ 52
 心いためば 59
 見れば飽かなく 65
 死にたらばすこしは 76
 家を出づれば日光の 84

栓抜けば餓ゑたる 92
 すぐ開きしかば 121
 飲めば身体が 124
 家をおもへばこころ冷たし
 見ればかなしも 141
 かなしみといはばいふべき
 仰げばいつも 161
 花散れば先づ人さきに 168
 興来れば友なみだ垂れ 189
 聞けばおとなし 200
 わかれをれば妹いとしも 205
 チヤルメラ聴けばうしなひし
 手をとれば泣きて 230
 酒のめば刀を 231
 鳴く日となれば起るてふ 237
 今日聞けばかの幸うすき 239
 山見え来れば襟を 245
 わが踏めば何がなしに 246
 そを読めば愁ひ知ると 258
 丘ののばれば名も知らぬ 262
 秋来れば神や住まむと 265
 秋風吹けば 270
 秋来れば恋ふる心の 291
 津軽の海を思へば 309

かなしめば高く笑ひき 330
 酔へばうたひき 331
 弟と呼べばはつかに 353
 酒のめば鬼のごとくに 356
 ふと瞬けばゆくりなく 388
 酒のめば悲しみ一時に 393
 死にたくはないかと言へばこれ見よと
 舞へといへば立ちて 395
 いかにせしと言へばあをじろき 397
 踏めば板軋む 401
 酔へば唱へき 405
 忘れをればひよつとした 426
 最一度聴かばすつきりと 429
 言ひやらば君も 432
 君を思へば安かりし 433
 夏来ればうがひ葉の 440
 かへり来ぬればわが窓の 444
 煙草を吸へばおほよその 474
 見てをれば時計とまれり 482
 ふと見ればとある林の 498
 戸を繰りをれば白きもの 515
 気がつけばしつとりと 524
 若しあらば煙草恵めと 525

ひとり歩めば 532
 マチ擦れば二尺ばかりの 541
 呼吸すれば、胸の中にて 552
 歩いてるねばならぬごとき 561
 湯をのめば、湯気が 562
 勤めなればかな。 566
 酒のめば胸のむかつく 568
 考へれば、ほんとに欲しと 581
 新聞の主筆ならば、やらむ——と 609
 もつと困らば、何を 613
 にやと啼けば、びつくりして 621
 眠気がさせば、うろたへて 628
 ひと足出れば、病人の 639
 よく見れば、泣いて 643
 日さませば、からだ痛くて 651
 夜となれば、寝合の上に 653
 病みてあれば心も 672
 とけて温めば、おのづから 681
 口に絶たねば。 697
 三十円もあれば、田舎にては、 700
 死ぬならば、ふるさとに 701
 その顔を見れば、逃げて 706
 猫を飼はば、その猫が 730
 児を叱れば、泣いて、 739

されば指の 741
 人なりといへば、妹の 743
 はい(肺) 217 226 740
 はいびやうやみ(肺病やみ) 232
 はう(方)形 574
 寝た方の腿の 574
 ばう(帽) 523
 はうかく(方角) 594
 ばうし(帽子) 34 450
 はうへいしくわん(砲兵士官) 370
 はか(墓) 5 132
 はがき(葉書) 592 636
 はかな・し(儂し) 16
 はがね(鋼鉄) 288
 ばかり 40
 一人居たきばかりに 125
 三日ばかり蠟燭の 151
 やとばかり桂首相に 184
 三日ばかり都に 191
 三年ばかりは 184
 死ぬばかり我が酔ふを 396
 二度ばかり見かけし男 537
 二尺ばかりの明るさの 541

三尺四方ばかり吸ひて
 五町ばかりは、 559
 四日ばかりも前の 606
 はかりか・ぬ (計り兼ね)
 はかりか・ね 用 608
 はか・る (計る・図る)
 はか・る 体 615
 はか・れ 已 745
 はき(萩) 276
 は・く(吐く)
 は・き 617
 は・く 終
 は・く(噴く)
 は・く 体 288
 は・く(穿く)
 は・く 体 412
 はくかく(博学) 181
 はこだて(函館) 307
 はし(橋) 247
 はし(箸) 26 68 311
 はし(箸) 677
 はじめ(初め) 299
 はじめて(初めて) 197
 はじ・む(創む) 243 648
 はじ・め 未 357

ばしよ(場所) 131
 はし・る(走る) 329
 はし・ら 222
 はし・れ 已 515
 はす(蓮) 501
 はず(筈) 形 511
 来る筈の 623
 はた(畑) 211
 はた(将) 122
 はだ(肌) 551
 バタ 610
 はたと 138
 はたはたと 270
 はたら・く(働く)
 はたら・き 183
 はたら・く 体 20
 はたら・け 已 101
 はち(鉢) 36 619 101
 はちねんぜん(八年前) 627
 は・つ(果つ)
 は・て 170
 はつあき(初秋) 145
 はつか・なり(僅かなり) 49% 503
 はつか・に 271 353

はつきりと 501
 はつこひ(初恋) 6
 はつこひびと(初恋人) 286
 はつゆき(初雪) 275
 はづれ(外れ) 688
 はて(果) 147
 はな(花) 128 167 168 223 227 234 315 374 424 424 435
 442 720
 はな(鼻) 108 406
 はないけ(花活) 720
 はなし(話) 82 311
 はなしか・く(話し(掛)く)
 はなしか・け 用 643
 はなしこゑ(話声) 481
 はな・つ(放つ)
 はな・た 137 721
 はなればなれに(離れ離れに) 573
 はなればなれの(離れ離れの) 73
 はね(羽子) 588
 はは(母) 717 725
 はばかり(憚り) 113
 はばひろ・し(幅広し)
 はばひろ・き 339

はひ(蠅) 725
 はひい・る(這ひ入る)
 はひい・る 体 485
 はまなす(浜薔薇) 304
 はまへ(浜辺) 304
 はまりきた・る(はまり来る)
 はまりきた・れ 已 605
 ハム 468
 はや(早や) 171
 はやし(林) 375
 376
 498
 684
 はやし(早し) 69
 180
 354
 はや・かり 終 160
 はや・る(流行る)
 はや・ら 175
 はら(腹) 89
 92
 369
 590
 650
 はら(原) 244
 はらじま(茨島) 185
 はらだ・つ(腹立つ)
 はらだ・つ 体 52
 ばらのみ(茨の実) 262
 はらば・ふ(腹這ふ)
 はらば・ひ 6
 はらわた(腸) 332

はり(針) 548
 はりか・ふ(張り替ふ)
 はりか・へ 用 119
 はりつ・む(張りつむ)
 はりつ・め 用 587
 はる(春) 153
 226
 249
 273
 418
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 はる(霽る) 457
 460
 668
 676
 は・る(霽る)
 は・れ 未 429
 は・れよ 49
 は・る(晴る)
 は・れ 用 161
 535
 589
 645
 はるか・なり(遙かなり)
 はるか・に 245
 バルコン(露台) 172
 ばれいしよ(馬鈴薯) 234
 424
 はれやか・なり(晴れやかなり)
 はれやか・に 636
 ばん(晩) 587
 632
 ばん(麵麩) 117
 496
 はんしん(半神) 299
 はんいち(半旦) 617
 はんぶく(半腹) 322

ひ(目) 6
 80
 103
 111
 115
 119
 126
 128
 137
 152
 176
 197
 ひ(火) 680
 695
 488
 211
 223
 226
 494
 507
 237
 257
 509
 535
 259
 266
 269
 279
 645
 647
 286
 286
 666
 352
 671
 413
 676
 418
 678
 452
 ひ(碑) 322
 ひ(灯) 489
 ひい・づ(秀づ)
 ひい・で 用 353
 ひいちにち(日一日) 382
 ひかげ(日影) 447
 485
 ひか・る(光る)
 ひか・ら 313
 360
 667
 ひか・る 体 278
 ひ・く(引く)
 ひ・か 316
 540
 ひ・き 35
 363
 656
 ひ・く 体 35
 ひ・く(挽く)
 ひ・く 体 298
 ひく・し(低し)
 ひく・く 407

【ひ】

ひくに(美国)	341	ひつくり・す		ひとなみ(人並)	99
ひげ(鬚)	28 438	ひつくり・し		ひとならび(一並び)	488
ひげ(髭)	163	ひつこし(引越し)	621	ひとは(一)葉	491
ひごと(日毎)	201	ひつしよりと	652	ひとばん(ひと晩)	619
ひごとに(日毎に)	110 705 737	ひつば・る(引つばる)		ひとひ(一日)	148
ひごとひごとに(日毎日毎に)	450	ひつば・り	621	ひとびと(人人)	329 342 696
ひごろ(日頃)	51 490	ひでこ(秀子)	249	ひとみ(瞳)	419
ひざ(膝)	402 504	ひでりあめ(ひでり雨)	276	ひとめ(人目)	113
ひさしぶり(久し振り)	533 579 644 717 725	ひと(人)	2 35 47 48 49 54 56 58 64 67 72	ひとよき(一夜き)	5
ひそか・なり	51	ひとあし(ひと足)	639	ひとり(一人)〔独り〕	3 40 74 90 95 95
744	171 187 345 657	ひとくれ(一)塊	12	ひとりすみ(ひとり住み)	520
ピストル	4 82 150	ひとげな・し(人氣なし)		ひとりづつ(一人づつ)	134
ひそ・む〔潜む〕	463	ひとげな・き	480	ひのもと(日の本)	142
ひそ・め	463	ひとこひ・し(人〔恋〕し)		ひば(檜葉)	685
ひそ・む〔潜む〕	下二	ひとこひ・し	473	ひばち(火鉢)	597
ひそ・むる	646	ひとこみ(人〔込〕み)	190	ひびか・せる〔響かせる〕	
ひた・す〔浸す〕		ひとさきに(人先に)	168	ひびか・せ	用 381
ひた・す	519	ひとしきり(一頻り)	363	ひびき〔響〕	256 382
ひたひ〔額〕	549	ひとつ(一つ)	36 106 133 176 607 645 659 665 674	ひびき・す〔響す〕	298
ひたひ(左)	504	777		ひび・く〔響く〕	
ひたりと	406	ひととこ(ひと処)	715	ひび・き	295
ひた・る〔浸る〕					
ひた・り	567				

ひびく 体 118
 ひふ(被布) 223
 ひふ(皮膚) 522 741
 ひぼん・なり(非凡なり) 47 54
 ひぼん・なる
 ひま(暇) 133 326
 ひま(隙) 271
 ひも(紐) 260
 ひやうしつ(病室) 644 645
 ひやうにん(病人) 639
 ひやうあん(病院) 471 648 650 654 658 688
 ひやくあまり(百あまり) 10
 ひやくせう(百姓) 613
 ひや・す(冷やす) 613
 ひや・し 571
 ひやひやと 448
 ひややか・なり(冷かなり) 418 469
 ひややか・に
 ひ・ゆ(冷ゆ) 418 469
 ひ・え 550
 ひよいと 582
 ひようなう(氷嚢) 667 681
 ひよつと 700 736
 ひよつとした 426

ひよつとして 126
 ひら・く(開く) 126
 ひら・き 359
 ひら・く 体 399
 ひらて(平手) 355
 ひる(昼) 514
 ひるすき(昼過ぎ) 485
 ひるね・す(昼寝す) 485
 ひるね・せ 742
 ひる・ぐ(広ぐ) 576
 ひる・げ 用 576
 ひる・し(広し) 576
 ひる・く 247
 ひろ・ふ(拾ふ) 247
 ひろ・ふ 体 302
 ひろ・へ 已 207 251 484 576
 ひをけ(火桶) 517
 ひん(罐) 385 466 469 483
 ひん(髪) 336 423
 【ふ】
 ふ(経) 149
 ふい(不意) 401

ふえ(笛) 381
 ふえのね(笛の音) 57
 ふか・し(深し) 84 691
 ふか・く 296
 ふか・し 296
 ふか・き 23 99 244 328
 かがひな・し(不甲斐なし) 142
 ふかひな・き 142
 ふきい・る(吹き入る) 361
 ふきい・る 体 491
 ふきい・れ 已 564
 ふきか・く(吹き掛く) 564
 ふきか・け 263
 ふきゆ・く(吹きゆく) 168
 ふきゆ・く 体 151 161 162 542
 ふ・き 終 144 193 504 509 510
 ふ・く 体 270 338
 ふ・け 已 270
 ふ・く(拭く) 462
 ふ・き 体 355
 ふ・く 体 355

かく・る (脹る) 650
 かく・れ 用 650
 かさい (負債) 583
 かしぎ (不思議) 133
 かしぎ・なり (不思議なり)
 ふしぎ・なる 25
 632
 ぶじに (無事に)
 ふ・す (伏す) 676
 ふ・し 676
 ふたつ (二つ) 591
 ふたばんおき (二晩おき) 566
 ふたみこゑ (二三声) 545
 ふたり (二人) 95
 439
 ふち (縁) 313
 ふぢさは (藤沢) 664
 ふつかまへ (二日前) 206
 ふつと 68
 192
 669
 ふてふ (符牒) 612
 ふと 33
 38
 201
 366
 415
 437
 473
 498
 554
 642
 725
 732
 ふと・し (太し)
 ふと・き 190
 ふとん (蒲団) 604
 642
 679
 ふね (船) 74
 309
 ふびん・だ (不憫だ)

ふびん・な 638
 ふぶき (吹雪) 355
 ふへい (不平) 88
 99
 149
 ふほ (父母)
 ふみ (文) 69
 191
 436
 473
 591
 ふみ (書) 166
 221
 258
 507
 ふ・む (踏む) 174
 268
 ふ・み 246
 401
 ふ・め 用 289
 ふもと (籠)
 ふや・く (潤く) 146
 ふや・け 303
 354
 384
 463
 488
 560
 562
 ふゆ (冬) 232
 ふ・ゆ (殖ゆ) 用
 ふ・え 用
 プラタス 536
 ふりい・づ (降り出づ)
 ふりい・で 用 479
 ふりむ・く (振り向く)
 ふりむ・き 745
 ふ・る (振る)
 ふ・り 34
 ふ・る (揮る) 189

ふ・る (揮る) 279
 ふ・る (降る) 454
 454
 565
 ふ・り 終 453
 455
 460
 ふ・る 体 234
 297
 335
 364
 668
 676
 ふ・れ 已 49
 ふ・る (狂る)
 ふ・れ 用 228
 ふ・る (触る) 536
 ふ・れ 用 16
 112
 200
 201
 204
 206
 208
 ふるさと (故郷) 270
 213
 214
 216
 224
 228
 238
 245
 246
 247
 250
 199
 251
 252
 252
 204
 206
 268
 270
 303
 316
 683
 685
 701
 ふるさとひと (故郷人) 211
 ふる・し (古し)
 ふる・き 336
 411
 450
 ふるしんぶん (古新聞) 624
 ふるてがみ (古手紙) 634
 ふるにつき (古日記) 612
 ふるひ (震ひ) 466
 686
 ふる・ふ (震ふ)
 ふる・は 343
 414
 ふるま・ふ (振舞ふ)

ふるま・ふ 体 721
 ふるま・へ 已 54
 ふわ(不和) 729
 ふわけ・す(解剖す)
 ふわけ・せ 178
 ふん・す(糞す)
 ふん・し 27

【へ】

へ
 三すぢへと 263
 へい(兵) 114
 へいき・なり(平気なり)
 へいき・に 633
 へいふく(平復) 735
 へうきん(剽軽) 63
 へうし(表紙) 507 675
 へうせん・たり(飄然たり)
 へうせん・と 15 15 224
 へうはく(漂泊)
 べし
 べかり 終
 かなしむべかり 264

いはばいふべき物の味 160
 へつらひ(詣ひ) 52
 へや(室) 44 119 129 413 646
 へん 720
 へんじ(返事) 602 643
 へんち 537
 へんど(辺土) 308

【ほ】

ほ(類) 2 42 416
 ほか(外) 632 671
 ほかけ(燈影) 13
 ほくぢやう(牧場) 610
 ほくろ(黒子) 511
 ほこら(祠) 295
 ほこり(誇り) 345
 ほ・し(欲し)
 ほ・しく 58 641
 ほ・し 106 131 205 317 399 581 674 693
 ほ・す(乾す)
 ほ・し 341
 ほそ(臍) 33
 ほそ・し(細し)
 ほそ・き 279

ほそほそと(細細と) 514
 ほたるがり(蛍狩り) 233
 ほて・る(熟てる)
 ほて・る 体 42
 ほつれ(解れ) 423
 ほど(程)
 三度ほど 306
 路問ふほどの 416
 六年ほど 450
 ほどこし(施与) 107
 ほとばし・る(迸る)
 ほとばし・る 体 156
 ほどよ・し(程好し)
 ほどよ・く 278
 ほとり(畔) 685
 ほのか・なり(仄かなり)
 ほのか・に 153
 ほのか・なる 296
 ほのじろ・し(ほの白し)
 ほのじろ・き 471 513
 ホブラ 338
 ほほ(頬) 360 366
 ほほじる(頬白) 528
 ほ・む(讀む)

ほ・め 48
ほ・む(賞む)

ほ・め 624
711

ほ・ゆ(吠ゆ)

ほ・ゆる 17

ほり(捕吏) 540

ほり・す(欲りす)

ほり・せ 103

ほ・る(掘る)

ほ・り 4

ホロオチン 695

ほろびゆ・く〔滅びゆく〕

ほろびゆ・く 体 211

ほん(本) 202
443
508
557
557
564
673
675

ほん(盆) 220

ほんどに〔本当に〕 581

ポンプ(唧筒) 156

ほんやりと 653

【ま】

ま(間) 583
704
715

まう・く(備く)

まう・け 359

まう・ひ(詣ひ)

まう・づる 578

まか・す(任す)

まか・せ 用 382

まきたばこ(巻煙草) 325

まぎれいで・く(まぎれ出で来)

まぎれいで・き 22

まきれい・る(まきれ入る)

まきれい・り 22

ま・く(負く)

ま・け 未 363

ま・け 用 143
349

まくら〔枕〕 744

まくら・す(枕す)

まくら・し 256
402

まくらどけい(枕時計) 319

まくらへ(枕辺) 706
718
742

まこと〔真〕 658

まさぐ・る〔弄る〕

まさぐ・る 終 33

まさやね(杵屋根) 203

まさ・る(優る)

まし 終

まし 終

割りて死なまし 36

呟呻してまし 45

物を言はまし 62

忘れても見まし 273

まじめ・なり(真面目なり)

まじめ・に 183

まじは・る(交はる)

まじは・り 634

まじまじと 706

まじ・る(交る)

まじ・り 143

まじ・る 体 724

まじ・れ 巳 519

ましろ・なり(真白なり)

ましろ・なる 421
518
546

ますぐ(真直) 147

また 212
426
553
568
605
659
689
696
701
730
735

また 555
652

またた・く(瞬く)

またた・け 巳 366

またな・し

またな・し 286

またも 149
482
549

まだら・なり(斑なり)

- まだら・なる 485
 まち (町) 306
 まち (街) 127 147 339 342 383 494 713
 まち (市) 724
 マチ (燐寸) 541
 まちまち (町町) 561
 まちまちと 79
 まつ (松) 185 256 295
 ま・つ (待つ) 396
 ま・ち 396
 ま・つ 終 651
 ま・つ 体 607 722
 ま・て 已 623 623
 まづ (先づ) 168 247 264 299
 まづしさ (貧しさ) 180
 まつり (祭) 220
 まて 77
 息ぎれるまで駆け出して
 家に入るまで 109
 嘶きしまで 120
 夜明けまであそびてくらす 131
 いつまでか 292
 たふるるまでも 395
 死ぬまでに 432
 夜明くるまでは 551
 いつまでも 561
 昨日まで朝から晩まで張りつめし 587
 いつまでか、 595
 返事きくまでの 602
 徹夜するまで、わが病ひ、 657
 今までのことを 661
 はづれまで一度ゆきたしと 688
 茶まで断ちて、 735
 まど (窓) 158 245 248 249 306 333 334 363 368 374 444
 555 464 471 497 499 516 527 542 644 645 654
 まどガラス (窓硝子) 335 449 449
 まなこ (眼) 37 667
 まなびや (学舎) 248
 まにあ・ふ (間に合ふ) 496
 まにあ・ひ 81 520 732
 まね (真似) 81 520 732
 まね・す (真似す) 60
 まね・し 60
 まひた・つ (舞ひ立つ) 375
 まひた・ち 375
 ま・ふ (舞ふ) 281 395 472
 ま・ひ 281 395 472
 ま・ふ 終 488
 まへ (前) 38 46 55 75 469 476 606
 まま (儘) 形 170
 そのままかへり来ぬ 595
 このまま懸けて 699
 成るがままに 217
 まみ (眸) 467
 まもなく (間もなく) 217
 まも・る (守る) 299
 まも・り 275 316 353 361
 まゆ (眉) 336 389 571 642
 まよなか (真夜中) 336 389 571 642
 まよなかすぎ (真夜中(過ぎ))
 まよ・ふ (迷ふ)
 まよ・へ 已 380
 まり (鞆) 203
 まれ・なり (稀なり)
 まれ・に 35 252
 まんぞく (満足) 585 585
 【み】
 み (身) 143 182 239 389 503 539 729
 みあ・く (見飽く)
 みあ・き 595
 みあげ・る (見上げる)

みあげ・ゐる 体 531
 みあ・ぐ (見上ぐ)
 みあ・ぐる 86
 みい・づ (見[出]づ)
 みい・で 用 445
 みい・る (見入る)
 みい・る 終 721
 みえ・く (見え来)
 みえ・くれ 245
 みおく・る (見送る)
 みおく・り 114 361
 みおほえ (見覚え)
 みか (三日) 125 184
 みか・く (見[掛]く)
 みか・け 用 537
 みが・く (磨く)
 みが・く 終 581
 みがま・ふ (身構ふ)
 みがま・へ 用 348
 みかん (蜜柑) 458 601
 みき (幹) 30
 み・す (見す)
 み・せ 用 150 393
 み・せよ 343

みすぢ (三すぢ) 263
 みすほら・し
 みすほら・しき 576
 みすほらしげ・なり (見すほらしげなり)
 みすほらしげ・に 38
 みそ (味噌) 108
 みそか (晦日) 632
 みそぢ (三十路) 520
 みぞれ (糞) 364 460 676
 みたび (三度) 306 351 436
 みだ・る (乱る)
 みだ・れ 276 668
 みち (道) 187 243 247 605
 みち (路) 263 416 508 528
 みちばた (路傍) 60 86 173 204
 みつ (三つ)
 みつ (満つ)
 み・つ (満つ)
 み・つる 289
 みづ (水) 70 124 156 261 287 327 399 519
 みづから (自ら) 29
 みつき (三月) 41
 みづたまり (水潦) 260
 みつ・む (見[詰]む)
 みつ・め 用 305 715

みつ・むる 601
 みとせ (三年) 116 191 201 436
 みとど・ける (見届ける)
 みとど・け 用 655
 みな (皆)
 みなげ・す (身投げす)
 みなげ・せ 410
 みなとまち (港町) 486
 みまは・す (見まはす)
 みまは・し 7
 みみ (耳)
 みみず (蚯蚓) 178
 みみたほ (耳朶)
 みやく (脉) 647
 みやく (脉) 686
 みやく (都) 184 234 435
 みやびを (風流男)
 み・ゆ (見ゆ) 272
 み・え 未 147 263 376 537
 み・え 用 380 452 704
 み・ゆ 215 223 309
 み・ゆる 102 128
 みよげ・なり (見よげなり)
 みよげ・に 457

みよげ・なる 191
 みらう(御廬) 268
 みる(見る) 273
 み未 388 671 677
 み用 72 87 98 100 123 151 206 248 267 268 271 274
 423 447 469 482 487 492 512 560 594 636 644 671 677 705
 みる終 101 122 156 202 265 491 584
 みる体 56 279 327 428 556 718
 みれ 65 141 498 643 706
 みよ 393
 みる 口・命 637
 みる補
 み未
 寝てみむと 116
 物言ひてみむ人あれと 269
 泣いてみむと 373
 咲かせてみむと、 619
 み用
 斬りてみぬ 23
 顔をしてみぬ 24
 恋してみたし 42
 讚めてみたく 48
 噛みてみたく 75
 駆け出してみたく 77

む

【む】

心にもなりてみたき 135
 吹きてみぬ 542
 歩いてみたれど 559
 欠伸してみぬ、 590
 出してみぬ、 604
 引っぱりてみて、 621
 起きてみて、 689
 書いてみたく 720
 笑ひてみぬ—— 725
 起してみたかりし、 727
 真似をしてみぬ、—— 732
 みる終
 物言ひてみる 7
 妻に言ひてみる。 557
 吹きかけてみる。 564
 かなしみてみる。 638
 子をほめてみる。 711
 みる体
 さはりてみるかな。 739
 みれ
 嘘にしてみれど、 661

む終
 泣きなむとすと 3
 仕遂げて死なむと 20
 旅をせむ 78
 おどけならむや 81
 物を思はむ 106
 家にこもらむ 115
 一日寝てみむと 116
 心いたまむと 130
 消えむと 133
 呻などせむ 140
 死にて見せなむ 150
 泣かむとす 187
 衣貸さむ踊れと 220
 川にゆかむと 233
 立ちて舞ひなむ 281
 つれなくせむや 285
 我を撃たむと 348
 殴らむと 350
 宗教を創めむと 357
 儲けむと 359
 泣いてみむと 373
 かかる思ひならむ 418
 語り出でなむ 431

一度会はむと 432
 酒など呷らむと 509
 やらむ——と 609
 咲かせてみむと、 619
 死なむと 701
 犬を飼はむと 745
 む 体
 心にかあらむ 23
 何にかたぐへむ 54
 神や住まむと 265
 わが為さむこと世に 266
 物言ひてみむ人あれと 269
 いつまでか……打出ですあらむ 292
 いくたびか死なむと 321
 負けざらむため 363
 胸や齋れむと 429
 散りてやあらむ 435
 四度にかあらむ 436
 犬にやあらむ 515
 人や死にたらむと、 646
 むかし(昔) 53
 むかしながら(昔ながら) 190
 386
 626
 662
 138
 192
 193
 195
 202
 203
 272
 274
 350

むかつく 体 568
 むか・ふ(迎ふ) 312
 むか・へ 未 312
 むか・へ 用 232
 むか・ふ(向ふ・対ふ) 3
 むか・ひ 3
 106
 252
 549
 むか・ふ 体 73
 584
 むぎ(麦) 316
 484
 む・く(向く) 316
 む・い 口・用 594
 むさぼ・る(食る) 451
 むさぼ・れ 已 451
 むし(虫) 18
 244
 289
 400
 514
 むし・る(毫る) 30
 むし・り 30
 む・す(噓す) 676
 む・せ 用 676
 むつ(六歳) 223
 むとせ(六年) 450
 むな・し(空し) 65
 むな・しき 65
 むなしさ(空しさ) 71
 むね(胸) 51
 420
 429
 548
 552
 568
 656
 663
 670
 671
 672
 676
 701
 726

むほんぎ(謀叛気) 346
 むやむやと 323
 むれ(群) 87
 むら(村) 217
 231
 232
 243
 むらさき(紫) 452
 531
 【め】
 め(目) 46
 63
 75
 115
 152
 215
 223
 265
 310
 310
 419
 442
 451
 め(眼) 704
 714
 455
 493
 511
 511
 511
 542
 569
 639
 642
 660
 668
 669
 681
 691
 699
 702
 めがね(眼鏡) 177
 179
 186
 309
 379
 399
 478
 553
 553
 597
 597
 670
 めぐ・む(恵む) 186
 313
 めぐ・め 命 525
 めぐ・る(巡る) 684
 めぐ・る 体 684
 めさま・す(目覚ます) 11
 481
 614
 めさま・し 已 651
 めさま・せ 已 651
 めし(飯) 314
 め・づ(愛づ) 319
 689
 め・で 319
 689
 め・づ 285

- めつき・す(目付す) 66
 めつき・し 87
 めづら・し(珍らし) 78
 めづら・しく 618
 めて(右手) 392
 めてたさ(目出度さ) 423
 めと・る(娶る) 612
 めと・ら 312
- 【も】
 も(面) 267 588
 も 5
 何の墓ぞも 5
 かなしくもあるか 12
 今日もおぼゆる 18
 あはれこれも物に 23
 時計の鳴るもおもしろく 32
 われも引きたし 35
 手も足も 44
 誰も誰も 49
 それもよしこれもよしとて 58
 持葉をのむがごとくにも 59
 われも真似しぬ 60
 いまも目にあり 63
- 息もつかず 66
 さびしくもなれ 76
 今年も思ひ過ぎたる 78
 わけもなきこと 79
 千万年も尽きざるごとし 85
 我も齎りき 91
 沁むがかなしも 92
 深き不平もあはれなるかな 99
 かなしくもあるか 100
 拭ひあへずも 102
 事もなく 105
 今日も耳鳴る 111
 かなしくもふるさとの 112
 名も知らぬ街など今日もさまよひて 127
 かくれ家もなし 136
 怒りいとしも 138
 見ればかなしも 141
 はても見えぬ 147
 何事も思ふことなく 148
 何事も金金と 149
 ピストルにても撃てよかし 150
 煙かなしも 152
 さびしくも消えゆく煙 154
- ゆくりなくも 155
 師も友も 157
 口真似もしき 163
 後備大尉の子もありしかな 164
 我を捨てし友もあの頃は 166
 今も名知らず 167
 英語の教師もありき 170
 坂をくだるがごとくにも 176
 蚯蚓のいのちもかなしかり 178
 師もありしかな 182
 けふもひそかに 187
 茂雄の恋もかなしかりしかな 194
 名挙げしもなし 196
 心かろくもとびさりしかな 198
 今年も草に 204
 妹いとしも赤き緒の 205
 母も時時ふるさとの 208
 田も畑も 211
 子等もまた 212
 櫛巻などもなつかしきかな 216
 死にし男もありき 217
 千代治等も長じて 219
 夜も書読む 221
 今も目に見ゆ 223

- ながくも街を 524
- 来しこともなし 538
- 今日も母なき子を 543
- 微かにも泣きしと 545
- かなしくも夜明くるまでは 551
- 冴よりもさびしき 552
- 何もなし。さびしくも、また、 553
- 休みて、今日も、 554
- いつまでも歩いて 561
- 雨も降りて 565
- 坂を上りしも 566
- 今日もまた 568
- 手も足も 573
- 今日も感ずる。 583
- いつの年も、 591
- 葉書も来にけり。 592
- 今年もしかるか。 593
- 誰にともしに。 604
- 正月も過ぎて、 605
- 四日ばかりも前の 606
- 今日も働けり。 607
- 今日もおとなしく 608
- 案外に多き気もせらる、 616
- 自分よりも年若き……半日も気焰を

- 今朝も思へる。 617
- 何度も叱り、 622
- 気もつかざりし 626
- 一度もなかりき。かうもなるものか？ 630
- 今月も無事に……欲もなき 632
- あの人も子を 637
- はてもなき 639
- わけもなく 642
- 堅き日もあり。 647
- かなしくも眺め入りたる。 668
- 何も見ざりき—— 671
- 心も弱るらむ！ 672
- 二度も、三度も、 674
- つめたさなども 687
- 力も無くなりし 690
- かなしくも、病いゆるを 692
- 何故ともなく、幾度も思ひ出さるる日 695
- なり。
- 友も妻もかなしと 697
- 悲しき心も—— 698
- 月に三十円もあれば 700
- 今日もまた 701

- くすりの味もなつかしきかな。 703
- (われもしかりき) 709
- お菓子貰ふ時も忘れて、 713
- 沁むもかなしや。 714
- 癖もつけるかな—— 718
- あてもなき……今日も暮したり。 722
- かなしみも、 726
- 何故ともなく、 728
- 今日も怒れり。 729
- 今日もあやふく、 731
- 今日も新聞を 733
- 父母もかなしかるらむ。 734
- 眼がかなしくも、 743
- もいちど(最一度) 172
- もう 655
- もう 659
- もえつ・く(燃え(尽)く) 172
- もえつ・くる 596
- もくさく(木柵) 178
- もし(若し) 525
- もだ・す(黙す) 609
- もだ・し 71
- もた・る(凭る) 71
- もた・れ 用 542
- もち(餅) 209 644
- 645

もちあく・む〔持ち倦む〕

もちあく・み 328

もち・う〔持ち得〕

もち・え 147

も・つ〔持つ〕

も・た 290

も・ち 81

も・つ 終 132

も・つ 体 264

も・て 巳 221 337

もて〔以て・持て〕

指もて掘りて 4

それをもて洗へば 25

箸もて敲きて 26

心もてこの一生を 50

竹もて大を撃つ 61

心もて静かに 73

ころもて見る 156

石をもて追はるるごとく 214

事をもて大願とせし 284

よろこびをもて 287

酒をもて悶を解すと 330

椅子をもて我を撃たむと 348

平手もて吹雪にぬれし 355

もつと 613

もてあそぶ〔弄ぶ〕

もてあそぶ 体 104 499

もてあま・す〔持てあます〕

もてあま・し 43

もてゆ・く〔持てゆく〕

もてゆ・き 337

もと〔因〕

もと〔下〕 157 349 173 178 385

もと〔元〕 605

もどか・し

もどか・しき 75

もどかしさ 602 602

もと・む〔求む〕

もと・め 用 127

もの〔物〕〔者〕 9 23 38 55 62 106 160 236 254

259 266 366 423 431 515 599 620 630 631 673 698 707

ものい・ふ〔物言ふ〕

ものい・ひ 7 269

ものい・ふ 終 282

ものう・し〔物憂し〕

ものう・き 573 689

ものおもひ〔物思ひ〕 430 439 518

ものがたり〔物語〕 354

ものたらぬ〔物足らぬ〕

ものね〔物の音〕 302

ものゑ・ず〔物怨ず〕

ものゑ・する 285

も・む〔揉む〕

も・む 体 725

もも〔腿〕 574

ももとせ〔百年〕 45

もや〔霧〕 560

もやう〔模様〕 223

も・ゆ〔燃ゆ〕

も・ゆる 179

もよほ・す〔催す〕

もよほ・し 590

もら・ふ〔貰ふ〕

もら・ふ 体 713

もり〔森〕 29 297 298 299

もりをか〔盛岡〕 172

もれ・く〔洩れ来〕

もれ・くる 302

もん〔悶〕 330

もんだう〔問答〕 31

【ヤ】

- や (屋) 253
- や (野) 528
- や 感 151
- や 咳の出づるや病めば 16
- 死ぬるや……生くるや 31
- なせするや 67
- 気まつきや何ぞ 73
- おどけならむや 81
- 此処に我ありや 129
- かるがゆゑにや秋が身に沁む 143
- 何を思ふや 241
- 神や住まむと 265
- つれなくせむや 285
- 火や守りけむ 299
- 今年も咲けるや 304
- いかになれるや 390
- 胸や穢れむと 429
- 散りてやあらむ 435
- 犬にやあらむ 515
- 人や死にたらむと、 646
- 妻や子を 658
- 沁むもかなしや。 714
- こはしやしにけむ。 716
- やうしよ (洋書) 317
- やうだ (様だ)
- やうで
- 思ふこと有るやうで無し。 581
- やうに
- 子供のやうにたはむれす 83
- えらい人のやうに思ひてゐたりき。 649
- やうな
- 下したやうな、気持なりき。 640
- やうやくに (漸くに) 68
- やがて 33 44 82 212 523 546
- やぎ (山羊) 163 466
- やきたて (焼きたて) 117
- やく (役) 56
- やく (焼く) 四
- やく (体) 209
- やく (焼く) 下二
- やく (夜具) 90 93
- やく (役場) 228
- やくるま (矢ぐるま) 315
- やけあと (焼跡) 22
- やさ・し
- やさ・しく 309
- やす (痩す) 346 690
- やす (用) 371
- やすけ・し (安けし)
- やすけ・し 371
- やす・し (安し)
- やす・から 192
- やす・かり 用 433
- やすみ (休日) 116
- やす・む (休む) 四
- やす・み 554
- やす・む (休む) 下二
- やす・め 用 673
- やつ (奴) 638
- やつと 496
- やど (宿) 340
- やとせ (八年) 196
- やどや (宿屋) 90 371 373 502
- やど・る (宿る)
- やど・り 51
- やなぎ (柳) 215 491
- やね (屋根) 380
- やねがはら (屋根瓦) 278
- やは

我にやはあらぬ 345

やはらか・し〔和かし〕

やはらか・き 285
391
451
461

やはらか・なり

やはらか・に 42
215
453
562

やぶ・る〔破る〕

やぶ・れ 用 494

やま(山) 206
206
210
245
252
252
265
275
288
295
322

やまあひ(山間) 324
367
409
425
582
582

やまいぬ(病犬) 17 334

やまち(山路) 233

やまひ(病) 88
152
200
237
440
657
683
691
692
718

やみあがり〔病みあがり〕 732
737

やみがた・し〔止みがたし〕 702

やみがた・き 603

や・む(休む)

や・む 終 437

や・む(止む) 四 437

や・み 480

や・む(止む) 下二

や・め 用 10
613

や・む〔病む〕

や・み 186
217
229
283
672
697
703
704
716

や・む 終 95
427

や・む 体 226

や・め 巳 16
455

や・める(止める)

や・める 終 613

やもめびと(やもめ人) 239

やや 296
362
470
481
698
719

やらむ

何処やらむ 18

うなだれてある故やらむ 57

何やらむ 87

何やらむ 437

何処やらむ 463

懸けておくことやらむ。 595

や・る〔遣る〕

や・ら 609

や・り 731

や・る 終 549

や・る 補

泣いてやりしかな 664

【ゆ】

ゆ(湯) 439
562

ゆかり〔縁〕 371

ゆき(雪) 446
453
454
479
528
668

ゆきあかり(雪明り) 383

ゆきかへり(行き返り) 403
530

ゆきき(往来) 713

ゆ・く(行く)

ゆ・か 233

ゆ・き 55
158
185
230
344
555
655
688
701
706

ゆ・く 終 199
473
482
594
622

ゆ・く 体 19
39
105
232
365
575

ゆ・け 巳 367
367
550
745

ゆくすゑ(行末) 102
497

ゆくはる(ゆく春) 716

ゆくりな・し

ゆくりな・く 155
366

ゆげ(湯気) 562

ゆび(指) 4
8
305
741

ゆふぐれ(夕暮) 227
468
513

ゆふね(湯槽) 439

ゆふひ(夕日)

ゆふべ(夕) 21
21
123
410
458
465
471
519
744

ゆみ(弓) 294

ゆめ(夢) 108
 ゆりかご(摇篮) 151
 ゆるぎい・う(ゆるぎ出づ) 192
 ゆるぎい・う(ゆるぎ出づ) 268
 ゆるぎい・う(ゆるぎ出づ) 274
 ゆるぎい・う(ゆるぎ出づ) 388
 ゆるぎい・う(ゆるぎ出づ) 415
 ゆるぎい・う(ゆるぎ出づ) 606
 ゆるぎい・う(ゆるぎ出づ) 655
 ゆるぎい・う(ゆるぎ出づ) 682
 ゆるぎい・う(ゆるぎ出づ) 683

【よ】

よ(夜) 22
 408 422 476 480 498 499 516 518 526 242 249 272 288 291 301 335 339
 よ(世) 64 68 76 266 299 358 593
 よ 砂のかなしきよ 8
 母よ咎むな 11
 帰りし癖よ 15
 こちよきよ 62
 友よきは 91
 友の二人よ 95
 味噌を煮る香よ 108
 裕の襟よかなしくも 112
 えらく見ゆる日よ 128

持つてふかなしみよ 132
 いらだてる心よ汝は 140
 撃てよかし 159
 心地よきよ 156
 愛読の書よ大方は 175
 その頃よ一人 186
 すて石よ 204
 男のごときたましひよ 241
 神童の名のかなしきよ 250
 心のいとまなきよ 291
 かの浜薔薇よ今年も 304
 わらひし友よ今も 312
 女教師よ 313
 立ちし女よ 325
 都雨よ君の 327
 焼くるにほひよ 339
 小樽の町よ……声の荒さよ 342
 眉の秀でし少年よ 353
 大いなる顔よかなしき顔よ 356
 青き林檎よ 499
 この酒肆のかなしきよ 500
 公園のかなしきよ 538
 さびしきよ 550
 心地よきよ! 570

われの頭よ! 593
 ああ・く(夜明け) 551
 よあけ(夜明け) 131
 よあ・くる 551
 よあ・く(夜明け) 561
 この気持よ。 723
 妻よ、語れと 715
 子よ。 708
 この心よ。……妻よ、思ふな。 670
 医者の遅さよ! 670
 古手紙よ! 634
 眠られぬ癖のかなしきよ! 628
 直ぐの心よ! 614
 ああ・く(夜明け) 606
 われ・く(夜明け) 614

よく(欲) 179
 よく(横) 594
 よこ・す(寄越す) 591
 よき・る(過ぎる) 325
 よき・る(夜霧) 524
 よきしや(夜汽車) 333
 よう(用) 473
 よう(用) 559
 よ・い(良) 589
 よ・い(良) 131

よこたは・る〔横たはる〕
 よこたは・る 体 7
 よこ・る〔汚る〕
 よこ・れ 用 412 445 454 584 585
 よごれ〔汚れ〕 477
 よさ〔良さ〕 620
 よざむ〔夜寒〕 93
 よ・し〔良し〕
 よ・く 76 163 297 490 611 633 633 643 655
 よ・し 58 58 61 279
 よ・き 598
 よ・す〔止す〕
 よ・せ 命 31 31
 よ・せ 用 318 539
 よ・する 211
 よすぢ〔四すぢ〕 263
 よたび〔四度〕 436
 よだれ〔涎〕 85
 よだれ・す〔涎す〕 12
 よだれ・し 12
 よつか〔四日〕 592 606
 よな〔様な〕
 似たよな歌を 591

よなか〔夜中〕 570
 よのなか〔世の中〕 419
 よは〔夜半〕 443 517 679
 よひる〔夜昼〕 295
 よ・ぶ〔呼ぶ〕
 よ・び 153 379 399 728
 よ・へ 已 353 736
 よふけ〔夜ふけ〕 555 611
 よみあ・く〔読み・飽く〕
 よみあ・き 733
 よみあり・く〔読みありく〕
 よみあり・く 体 457
 よみい・づ〔詠み出づ〕
 よみい・で 用 194
 よみがたさ〔読みがたさ〕 320
 よ・む〔読む〕
 よ・み 166 364
 よ・む 終 221
 よ・む 体 443 514 583 673
 よ・め 已 69 258
 よめとり〔嫁取り〕 226
 よもすがら〔夜もすがら〕 256
 より
 指のあひだより落つ 8

壁のなかより杖つきて 13
 森の奥より銃声聞ゆ 29
 高きより飛びおりるとき 50
 遠くより笛の音きこゆ 57
 心より今日は 88
 われよりえらく見ゆる日よ 128
 今日よりは 146
 窓より通げて 158
 髯の似たるより山羊と 163
 肩のひまよりはつかにも 271
 病みし頃より口すこし 283
 汽車の窓よりながめたる 306
 汽車の窓より人先に 363
 遠くより笛ながながと 381
 かれより優れたる 394
 空色の鱗より山羊の 466
 今日よりは……思へる日より秋の 509
 曠野より帰るごとくに 526
 嫁ぎてよりすでに 538
 つとめ先よりかへり来て 544
 凧よりも 552
 腹の底より欠伸もよほし 590
 横より見てゐる心。 594
 お嫁さんより送り来し 610

自分よりも 617
 聴診器より。 656
 氷嚢の下よりまなこ 667
 二階より、 713
 よりかか・る (倚りかかる) 713
 よりかか・り 597
 よりかか・る 体 455
 よりそ・ふ [寄り添ふ] 392
 よりそ・ひ 392
 よる (夜) 162 197 221 302 448 515 523 542 544 596 646
 よ・る (寄る) 667
 よ・り 525
 よ・る (倚る) 172
 よ・ら 654
 よ・る (由る) 600
 よ・る 体 600
 よ・る (因る) 691
 よ・る 体 287
 よろこ・び (喜び) 104
 よろこ・ぶ (喜ぶ) 728

よろこ・ぶ 体 213
 よろこ・べ 日 621
 よろしき 29 145 644
 よわ・し (弱し) 622
 よわ・き 137
 よわ・い 口・体 622
 よわたり (世わたり) 345
 よわ・る (弱る) 672
 よわ・る 終 672

【い】

らい (雷) 226
 らう (牢) 95 193
 らうか (廊下) 121 401 530
 らうたうさ (浪淘沙) 414
 らうどうしや (労働者) 710
 らくに (楽に) 101 700
 らし 終
 らし 終 272
 老ゆらし 272
 かなしと思ふらし 697
 らふそく (蠟燭) 125 596
 らむ 終
 らむ 終

似たりといふらむ 17
 草に埋もれしらむ 204
 棄てて出づるらむ 212
 何と聴くらむ 289
 今は醒めつらむ 348
 君も聴きつらむ 417
 好きたまふらむ 424
 何をやめるらむ 613
 何処にゐるらむ 635
 心も弱るらむ! 672
 争ひの種となるらむ、 730
 父母もかなしかるらむ 734
 らむ 体
 うなづくらむか 432
 ラムプ 125 421 518
 らる 未
 られ 未 450
 棄てられぬかな 450
 寐られぬ夜の 542
 寝られぬ夜は 667
 られ 用 508
 差し止められし 508
 らる 616
 多き気もせらる 616

らんかん(欄干) 311 571

【り】

り

り用

読めりけり 69
 夜となれりけり 301
 言へりけり 351
 共産を主義とせりけり
 花咲く頃となれりけり 474 355
 夏となれりけり。 702
 り終
 帰り来れり 10
 心戯けたくなれり 25
 空に遊べり 27
 三月にもなれり 41
 我はおもへり 59
 よしと思へり 61
 逃げ去れり……逃げ去れり 88
 心来れり 89
 金を欲りせり 103
 己が道をあゆめり 187
 雨を思へり 234
 心に照れり 235

心重れり 246
 小石拾へり 251
 物を思へり 254
 鳥啄めり 262
 日記に残れり 271
 友は遊べり 328
 日記に残れり 338
 今は思へり 349
 頬をつたへり 366
 窓を照せり 368
 林を包めり 375
 空にまよへり 380
 我を言へりとか 394
 低く浮かべり 407
 君を思へり 425
 にほひそめり 463
 軽くしめれり 474
 時計とまれり 482
 小櫛ひろへり 484
 時計とまれり 498
 庭を走れり 515
 河岸をさまよへり。 554
 顔にかかれり。 562
 我つぶやけり。 569

誤植ひろへり。 576
 時を惜めり。 597
 はまり来れり。 605
 今日も働けり。 607
 物を思へり。 673
 一つ欲しと思へり。 674
 閑古鳥を聞けり。 682
 五歳になれり。 707
 庭の青めり。 714
 今日も怒れり。 729
 小蟻と遊べり。 733
 我はかく育てり。 734
 白き犬ゆけり。 745
 る体
 なみだを吸へる砂の玉 9
 こみ合へる電車の隅に 21
 積れる雪に 42
 倦めるさびしさ 48
 沈める顔す 49
 ふるまへる後の 54
 恋文めける文を 69
 くもれる空を 98
 堅くかわける海綿を 122
 したしめるかな 125

われのみ知れるごとく	126	美国といへる停車場の	341	眠れる街の	522
なげうてる昔の	138	治まれる世の	358	さまよへるかな	524
いらだてる心よ	140	わが去れる後の噂を	365	小鳥あそべるを	534
よろこべる男	145	いかにされるや	390	笑める男は	540
亡くなれる師が	202	姿をあらはせる阿寒の山の	409	中をよぎれる白き蛾のあり	541
ひろへるごとし	207	三味にうたへるゆふべ	410	城址にさまよへるかな	543
秋に入れるなり	208	今朝も思へる	429	児を抱けるかな	544
柳あをめる北上の	215	恋しくなれる君にし	434	酒のめるかな!	568
父もてる三太は	221	むさぼれる目に	451	ゆるめる心!	586
噂に立てるふるさとの	228	遠くつづける高塀の	452	正月にかへれるごとし。	588
たより着ける朝は	238	目を病める若き女の	455	過ぎゆける一年のつかれ	599
なやめる魂を	240	ただよへる新開町	456	今朝も思へる。	620
窓に立てるかな	248	見よげに書ける女名の	457	蒲団かぶれる。	642
書焚けるいにしへ人の	258	入日うつれる河ばたの	464	よろこべるかな。	644
黍の葉鳴れるふるさとの	270	静かになれるゆふぐれの	468	ひそかに願へる。	657
摩れあへる肩のひまより	271	蟻のならべる棚の前	469	嘘をいへるかな。	659
かなしみぞ我に來れる	281	しめらへる煙草を	474	目をばつおれる。	660
今年も咲けるや	304	麦の青める丘の根の	484	馬にのれる己が姿を胸に描ける。	663
耳刺らせるが	307	鳶を圧せる潮ぐもりかな	486	人をにくめる。	667
知れる人もなき	308	泳げるとき	488	目をばつおれる。	669
やさしくなれるいもうとの	309	路にて会へる秋の朝かな	508	妻に語れる。	675
騒げる函館の	318	思へる日より	509	乗れるかと	679
友とのめる酒かな	326	片隅につらなれる島島の上に	510	からだ痛める。	681
今も持てるかなしみ	337	葱の香などのまじれる夕	519	夢にきけるかな。	683

わかさ(若さ) 305
 わか・し(若し)
 わか・く 331
 わか・き 76 156 170 198 232 243 284 360 379 455 459
 わか・る(別る) 460 502 686
 わか・れ 用 97 333 352
 わかれ(別れ) 333 362
 わかれ・く(別れ来) 366 434 470 499
 わかれを・り(別れ居り)
 わかれを・れ 巳 205
 わき・く(湧き来)
 わき・き 561
 わき・くる 388
 わ・く(湧く)
 わ・き 255
 わ・く 体 152
 わけ〔訳〕 79 642
 わけ・く(分け来)
 わけ・くる 190
 わざ(業) 83
 わざわざ 326
 わす・る(忘る) 四

わす・ら 224 540
 わす・る(忘る) 下二
 わす・れ 未 2 148 379 587 682
 わす・れ 用 242 267 273 280 287 322 443 586 713
 わす・る 717 732 694
 わすれがた・し(忘れがたし)
 わすれがた・かり 終 391
 わすれか・ぬ(忘れ(兼ぬ))
 わすれか・ね 用 426
 わすれ・く(忘れ来)
 わすれ・き 367 603
 わすれなくさ(忘れな草)
 わすれ・る(忘れる) 293
 わすれ・る 用 625
 わすれを・り(忘れをり)
 わすれを・れ 巳 426
 わつと 135
 わめ・く〔喚く〕
 わめ・く 体 205
 わらひ(笑ひ) 332 389
 わら・ふ(笑ふ)
 わら・は 51 629
 わら・ひ 149 181 312 330 725

わら・ふ 体 76 520 588 629
 わら・へ 巳 15
 わ・る(割る)
 わ・り 36 36
 わる・し〔悪し〕
 わる・く 657
 われ(我) 1 13 20 21 35 51 52 56 59 60 68
 94 95 103 117 123 126 128 129 138 150 151 162 164 166 168
 172 176 180 181 185 188 188 212 218 222 230 233 233 269 279 281
 314 314 337 345 347 348 349 349 350 361 378 394 402 427 436 509
 569 575 577 593 658 662 692 696 705 709 727 734 743
 わん(灣) 407
 わち(位置) 623
 わなか(田舎) 700
 わなかめ・く(田舎めく)
 わなかめ・く 体 184
 ゐば・る(威張る)
 ゐば・り 100
 ゐる(居る)
 ゐる 用 40 134 201 376 410 724
 ゐる 終 635
 ゐる 補

ゐ 未
 歩いてゐねば 561
 ゐ 用
 見てゐぬ 72
 思ひてゐしは 79
 見てゐしに 98
 うちてゐぬ 107
 誦してゐし 310
 光らせてゐし 313
 降りてゐき 565
 落ちてゐぬ 625
 はれやかにしてゐたるかな。 636
 泣いてゐたりき 643
 思ひてゐたりき 649
 顔してゐたき 665
 ゐる 終
 見てゐる 87
 ゐる 体
 起きてゐる果物屋を 555
 見てゐる心 594
 盗汗出てゐるあけがたの 652

系が・く(描く)
 系が・く 体 486
 系が・け 已 663
 系ひ(酔ひ) 348 390 395 461 467 501 569 570
 系ひざめ(酔ひざめ) 397
 系ひどれ(酔漢) 189
 系・ふ(酔ふ)
 系・ひ 230 309 399
 系・ふ 体 396
 系・へ 已 331 405
 系み(笑み) 397
 系・む(笑む)
 系・み 353
 系・め 已 540
 系んばう(遠方) 111
 【を】
 を(緒) 205
 を(尾) 279
 を 2
 砂を示しし人を忘れず 2
 家を出でにき 3
 砂を指もて 4
 いたみを遠く 6

なみだを吸へる 9
 大といふ字を百あまり……死ぬことを やめて 10
 母を背負ひて 14
 家を出でては 15
 わが泣くを少女等きかば 17
 ころ細さを今日も 18
 心を吸はれゆく 19
 それを仕遂げて 20
 顔をしてみぬ 24
 それをもて洗へば 25
 茶碗を箸もて 26
 怖れを覚え……臍をまさぐる 33
 帽子をふりて 34
 鉢を割り 36
 汽車を下りしに 39
 熱てる頬を埋むるとき 42
 一念を持てあましたる 43
 人を讃めて 48
 この一生を終るすべなきか 50
 われを笑はしめざり 51
 へつらひを聞けば……我を知るが 52
 物を言ふ時 55
 我を見る人に 56

系(絵) 206

- その気がるさを欲しく 58
 死ぬことを持葉をのむが 59
 犬を撃つ小児の顔をよしと 61
 物を言はまし 62
 仕事をしたる後の 66
 婚期を過ぎし……文を読めりけり 69
 水を吸ひたる 70
 己を怒り 71
 口をあけたてす……人の語るを 72
 菓子皿などをかりかりと 75
 草原などを 77
 旅をせむ 78
 燈火を消して 79
 死ぬまねをする 81
 家を出つれば 84
 空を見上ぐる 86
 鶴嘴を打つ群を見てゐる 87
 喉のかわきをこらへつつ 93
 頭を下げさせし 94
 牢を出でて 95
 才を抱きて……友をかなしむ 96
 損をせしごとく 97
 くもれる空を見てゐしに人を殺したく 98
- ちつと手を見る 101
 酒のみたく……金を欲りせり 103
 水晶の玉をよろこび 104
 水晶の玉をひとつ欲し……物を思はむ 106
 施与をするごとき 107
 味噌を煮る香よ 108
 石をきざむ音 109
 人目を避けて 113
 兵を見送りに 114
 われのころを焼きたての 117
 障子をはりかへぬ 119
 扉を推せしに 121
 海綿を見る 122
 われをなつかしく……手紙を書きたき 123
 夕 123
 花を買ひ来て 128
 室を眺むる 129
 唾を吐く 130
 家をおもへば 131
 家を持つてふかなしみよ 132
 不思議を示し 133
 女のごときかなしみをよわき男の 137
 時計をなげうてる 138
- さほどにもなきをさびしがるかな 139
 心を砕く 141
 女等を秋雨の夜に 142
 小説を書きて 145
 口を利かじと 146
 街をあゆむごときころを今日は 147
 一日を忘れじと 148
 己が名をほのかに呼びて 153
 口笛を吹きたくなりて 161
 石を投げて 164
 木の実をひとり 165
 我を捨てし友も 166
 なかよくせしをかなしと 169
 我を倚らしめ 172
 友を説きふせし 173
 かさこそ散るを踏みて 174
 坂をくだるが 176
 小鳥の飛ぶを飛びてうたふを 177
 燃ゆる眼を姉は傷みき 179
 蘇峯の書を……校を退きぬ 180
 博学の師を 181
 身をあやまちし 182
 旅の姿を三日ばかり 184
 街道をわれと……才をたのみき 185

- 眼を病みて……眼鏡をかけし……一人
泣くをおぼえし 186
- 己が道をあゆめり 187
かなしさを知りし我なり 188
- 手を揮りて 189
人ごみの中をわけ来る 190
- 年賀の文を書く人と 191
歌をよみ出でし 194
わが恋をはじめて 197
そを聞きにゆく 199
- 雀の鳴くを三年聴かざり 201
ふるさとのことを言ひ出づ 208
ふるさとを棄てて 212
ふるさとを出で来し 213
- 石をもて……ふるさとを出で来し 214
首席を我と 218
子を挙げぬ 219
女を思ふ 220
肺を病む 226
- 手をとれば 230
刀をぬきて妻を逐ふ……村を逐はれき 231
- 我を山路に 233
雨を思へり 234
- 身を入るるてふ 239
なやめる魂をしづめよと 240
何を思ふや 241
白き躑躅を薄月の 242
道を説きたる 243
襟を正すも 245
ふるさとの土をわが踏めば 246
春の夜を秀子とともに 249
玉をあざむく……物を思へり 254
松のひびきを夜もすがら聴く 256
そを読めば 258
紐を浮かべぬ 260
長き日を……物を思ふか 266
濡れゆくを見て 267
小櫛の蝶を夢に 268
朝を思ひぬ 275
尾を掉りて……我を見る犬の 279
得るに過ぎざる事をもて 284
よろこびをもて 287
火を噴く山も 288
虫を何と聴くらむ 289
洩れくるを拾ふが 302
若さを数へみて指を見つめて 305
床屋の弟子をおもひ出でぬ 307
- わがあとを追ひ来て 308
津軽の海を思へば 309
目を閉じて傷心の句を誦して 310
妻をむかへしと 312
眼鏡の縁をさびしげに 313
飯を与へき 314
麦のかをりを懐かしむ 316
香をかぎて一途に金を欲しと 317
支那の俗歌を……まくら時計を愛でし 319
愁ひを叙して 320
たふとげの事を咬く 323
水の面を見るごとに……君のなやみを 327
思ふ 327
慈悲をもちあぐみ 328
酒をもて悶を解すといふ年上の友 330
手の相を見せよと 343
拙きことをひそかにも 345
記事を書きしは 347
椅子をもて我を撃たむと 348
剣を擬したりと 351
友をなつかしく 352
顔を拭く友共産を主義と 355
宗教を創めむと 357

- 涙を光らせて 360
 子を負ひて 361
 顔を引きしも 363
 噂をおもひやる 365
 頬をつたへり 366
 煙草を思ふ 367
 汽車の窓を照らせり 368
 痛み出でしをしをしのびつつ 369
 青き寐顔をかなしと 372
 凍てしを染むる 374
 林を包めり 375
 寂寞を敵とし…長き一生を送る人も 377
 眼をも忘れず 379
 インクの繻を火に 385
 かなしみの滓を嚼るごとくに 387
 湧き来るを寐て夢みぬをうれしとはせし 388
 咽喉の痾を見せし 393
 我を言へりとか 394
 我が酔ふをまちていろいろのかなしきことを囁きし人 396
 笑みをつくりき 397
 火をしたふ虫の 400
 漢詩を酔へば 405
 寒き空気を吸ひたく 406
 紋のきれしを火事のごと 408
 姿をあらはせる 409
 女泣きしを小説の 413
 声をふるはせて 414
 明るさのみを吸ふごとき 419
 焼跡を去りし夜のこころ残りを今も 422
 鬢のほつれのめでたさを物書く時の 423
 この花を好きたまふらむ 424
 山を思ふが…君を思へり 425
 姿を街に見る時のこころ躍りをあはれと 428
 かの声を最一度聴かば 429
 君を思へば 433
 年を重ねて 434
 手套を脱ぐ手 437
 情をいつはる…髭を立てしも 438
 手をながめつつ 441
 新しき本を買ひ来て 443
 吸取紙をなつかしむかな 445
 そを見つつ 447
 春のねむりをむさぼれる 451
 目を病める 455
 門札などを読みありくかな 457
 乳をつぐ 466
 歯せせる女をかなしとも 469
 キスを交して 470
 舞ひし女をおもひ出にけり 472
 煙草を吸へば 474
 夏の来るを感じつつ…土の香を嗅ぐ 475
 袖のよごれを気にする日かな 477
 大桶をころがす音し 479
 輪を描く鳶を庄せる 486
 鳥影を見て 487
 目をかきみだす 493
 若き女の泣くをきく 502
 国禁の書を行李の底に 507
 売ることを差し止められし 508
 毛糸の玉をころがして鞆を編む 512
 戸を繰りをれば白きもの庭を走れり 515
 窓の硝子をうす紅く 516
 手をあてて 518
 身体をひたすかなしみに 519

- 深夜の街を一人散歩す 521
 街をさまよへるかな 524
 東京の夜をひとりあゆみて 526
 遊ぶを眺む 528
 空を見上げるる 531
 小鳥あそべるをながめて 534
 衰へを知る 535
 散りて触れしを 536
 中をよぎれる 541
 目をとちて 542
 子を負ひて 543
 児を抱けるかな 544
 空気を三尺四方ばかり 547
 針を刺す 548
 またも手をやる 549
 眼をあけるかな 553
 つとめ先を休みて、今日も、河岸をさ
 まよへり。 554
 果物屋を探しに 555
 本を買ひたし、本を買ひたしと、 557
 旅を思ふ夫の 558
 家を出て 559
 歯をおさへつつ、……のぼるを見た
 り。 560
- 湯をのめば、 562
 手の爪を切る。 563
 切通しの坂を上りしも―― 566
 脳の重みを感じて 567
 癖を知りつつ。 568
 目をうちつぶり、酔ひを味ふ。
 墨を磨るかな。 570
 手先を冷やしけるかな。 571
 わがこのごろをひとり恐るる。
 腿のかるきしびれを。 574
 我の心を通る。 575
 誰か我を思ふ存分 577
 明日の来るを信ずと 580
 煙管をみがく。 581
 石をさがすかな。 582
 読む間なかりしを負債のごとく
 手を見る―― 584
 手を洗ひし時の 585
 来し方をすべて 586
 歌を二つ三つ 591
 それを横より 594
 懸額をこのまま懸けて 595
 眼を開け、時を惜めり。 597
 思ふ心を叱りて 598
- 爪を見つむる 601
 手を打ちて 602
 用を忘れ来ぬ―― 603
 蒲団をかぶり、足をちぢめ、舌を出し
 て 604
 時間となるを、ただ一つの 607
 頤を埋め、 611
 酒をやめし……何をやめるらむ。 613
 事をはるかに……わが性格を思ふ寢覚
 かな。 615
 気焰を吐きて、 617
 議會を罵りつつ 618
 梅の鉢を火に 619
 茶碗をこはし、物をこはす気持のよき
 を、 620
 猫の耳を引つぱりてみて、 621
 弱い心を何度も叱り、 622
 机の位置を此処に 623
 歌の事を賞めて 624
 空を仰ぐと 630
 字を書かぬものと、 631
 嘘を言ひき。……嘘を言ひき。 633
 顔をはれやかに 636
 子をこしらへたと、 637

重い荷を下したやうな、 640
 蒲団をかぶれる。 642
 巡查を見たりと、 644
 煙草を味ふ。 645
 息をひそむる。 646
 脈をとる 647
 自分をえらい人の 649
 腹を撫でつつ、 650
 夜明くるを待つ。 651
 歩くを眺む。 654
 心底をよく見届けたと、 655
 つと胸を引きぬ—— 656
 子をいつくしむ 658
 嘘をいはじと……嘘をいへるかな。 659

時計を一つ欲しと 674
 眼をとづ。 676
 子を叱る、 678
 手をのべて 680
 閑古鳥を……閑古鳥を 682
 ふるさとを出でて五年、病をえて、か 683
 の閑古鳥を夢に 684
 山荘をめぐる林の 686
 脈をとる手の 688
 遠きを思ふ。目をとちて 691
 病いゆるを願はざる 692
 からだを欲しと……痕を撫でつつ。 693
 薬のむことを忘るるを、 694
 手を握り、 696
 子を見つつ、 705
 子を坐らせて……その顔を見れば、 706
 いつも子をうるさきものに 707
 言葉聞きおぼえたる 710
 声を出し、唱歌をうたふ子をほめてみ 711
 る。 711
 玩具をすてて 712
 往来を眺むる子かな。 713
 畳を見つめてその思ひを、 715

眼をやみて 716
 薬のむことを忘れて、……叱られしを 717
 うれしと 718
 空を見る癖も 720
 ペンを取りぬ—— 721
 ダリヤを見入る。 722
 金などを待つ思ひかな。 723
 煙草を吸ふなり。 724
 声を出して……両手を揉むが 725
 騒ぎを起して……我をいとしと 727
 露西亜名をつけて、 728
 身を処して、 730
 猫を飼はば、 732
 やまひを忘れ、……真似をしてみぬ、 735
 新聞を読みあきて、 738
 平復を祈りたまふ 742
 児を叱れば、 743
 人形を買ひ来て 744
 クリストを人なりと……われをあはれ 745
 む。 748
 庭のそとを白き犬ゆけり。……犬を飼 749
 はむと 750
 をか(丘) 751

をかしさ (可笑しさ) 725
 をか・し (可笑し)
 をか・しく 321
 をか・し 181
 をぐし (小櫛) 268
 をぐら・し (小暗し) 484
 をぐら・き 499
 をさなこ (孩児) 532
 をさな・し (幼し)
 をさな・く 292
 をさな・き 207
 をさま・る (治まる) 311
 をさま・れ 已 358
 をし・ふ (教ふ)
 をし・へ 用 212
 をし・む (惜む)
 をし・め 已 597
 をたる (小樽) 342
 をつと (夫) 558
 をとこ (男) 28
 145 41
 146 217 224 241 324 404 523 537 540 634 734
 をとめ (少女) 185
 をとめら (少女等) 17
 をどりい・づ (躍り出づ)

をどりい・で 用 65
 をどりい・でよ 46
 をど・る (躍る)
 をど・ら 171
 をど・れ 命 220
 をば
 堅き皮をばむしりて 30
 上目をば愛づと 285
 死をば語りき 360
 手をば握りき 362
 身をば寄せたる 539
 目をばつぶれる。 660
 目をばつぶれる。 669
 をは・る (終る)
 をは・る 終 82
 をは・る 体 50
 をり (滓) 387
 を・り (居り)
 を・ら 120
 を・り 補
 を・り 用
 負けてをり 143
 はたらきて居り 183
 夜霧下りて居り 524

を・れ 已
 見てをれば 482
 をりゆ・く (折りゆく)
 をりゆ・き 242
 をんな (女) 137
 392 141
 393 220
 394 243
 410 469
 413 316
 441 472
 455 325
 459 336
 460 389
 462 390
 469 391
 472 390
 494 336
 502 389
 512 390
 625 391
 をんなけうし (女教師) 248
 をんな (女名) 313
 をんな (女名) 457
 をんなら (女等) 142
 【ん】
 ん (む)
 いつか是非、出さんと 675